

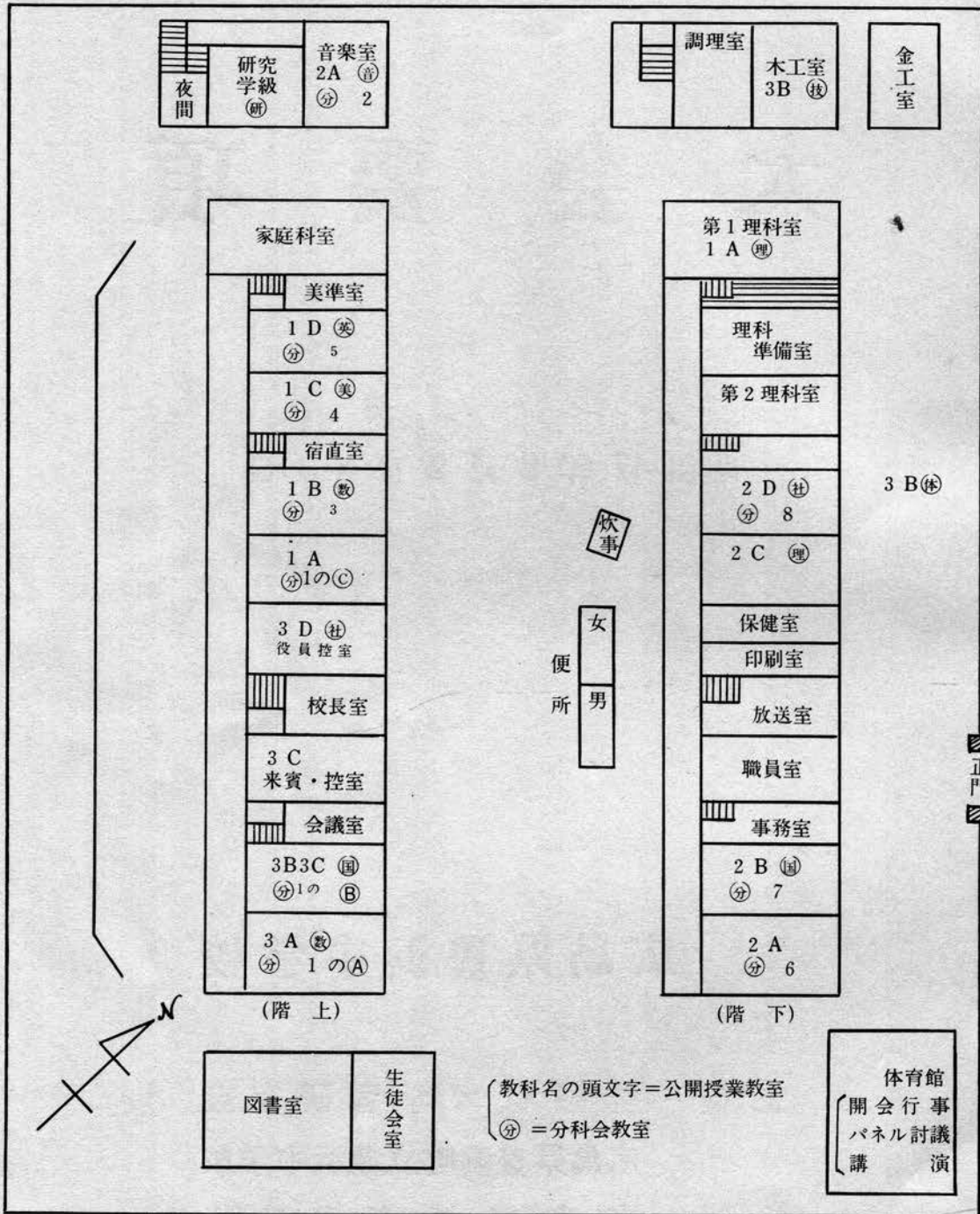
第4回 全国バズ学習研究集会

大会要項

昭和47年8月2日・3日

広島県豊浜中学校

主催 全国バズ学習研究会
広島県豊浜町立豊浜中学校
後援 広島県教育委員会
広島県豊浜町教育委員会



1 日 程

第1日(8月2日)

8.30 9.00 9.45 10.25 11.00 12.20 13.30 14.30 17.00

受付	公 開				昼 食	分 科 会	
	授 業	清 掃	H R	開会行事 基本提案		研究発表 (十分科会)	協 議

第2日(8月3日)

8.30 9.00 9.40 10.25 11.10 11.40 12.20 13.00 14.30 15.30

受付	公 開				昼 食 (会場別)	移 動	全 体 会	
	生徒朝会	必修クラブ	会場移動 町内バス	町内バス			パネルディ スカツション	講 演

2 公開授業 (第1日) 9:00 ~ 9:45

学年・組	教 科	題 材	名	授 業 者	場 所
1A	理 科	混合物の沸点		山根 正純	第一理科室
1B	数 学	平面図形の平行移動		清田 滋	1B教室
1C	美 術	版画のためし刷りをしよう		吉川 和治	1C教室
1D	英 語	New Horizon Lesson8 (1)		鎗野健次郎	1D教室
2A	音 楽	サンタルチア(イタリア民謡)		大背戸澄子	音楽室
2B	国 語	組み立てをとらえる		横 勝博	2B教室
2C	理 科	酵素とその働き		寺田 勝彦	2C教室
2D	社 会	鎌倉幕府の成立		望月 秀晃	2D教室
3A	数 学	実 数		井原 多澄	3A教室
3B	技 術	機械と生活(小型船舶とディーゼル機関)		松尾 誠	技術室
3B	体 育	陸上競技(障害走)		道法 幸恵	運動場
3C	国 語	日本語の特色		橋浜 正人	3B教室
3D	社 会	労働問題		望月 民雄	3D教室
特殊	作業単 元印刷	暑中見舞を印刷する		林 義浩	研究学級

3 基本提案 (第1日) 11:50 ~ 12:20 体育館

- (1) 本校バス学習の経過 教頭 山 根 正
 (2) 校内研究組織と今年度のとらつき 教諭 松 尾 誠

4 分科会

(第1日) 13:30 ~ 17:00

分科会	テ ー マ	助 言 者	司 会 者	発 表 者	場 所
1	教科指導と バズ学習 (国社数理英)	㉠姫路市教育委員会 永井辰夫 広島県教育委員会 佐藤正由 広島県賀茂川中学校校長 森重盛登	竹原市 竹原中学校 藤井万歳	掛川市三笠中学校 小林明 春日井市東部中学校 今尾啓一 広島県豊浜中学校 山根正純	3A教室
		㉡広島県教育委員会 松浦義人 広島県木江中学校校長 中野寿 広島県安芸津中学校校長 佐々木圭輔	広島県 南中学校 石本嘉隆	兵庫県鹿谷中学校 小林昌義 姫路市高丘中学校 伊勢田耕一 広島県豊浜中学校 寺田勝彦	3B教室
		㉢広島県瀬戸田中学校校長 赤羽善吉 広島県忠海中学校校長 丸橋園生 広島県大崎中学校校長 冷牟田充泰 広島県黒瀬中学校 麻生和子	広島県 本郷中学校 橋本一正	春日井市藤山台中学校 右高進 広島県安浦中学校 武本忠義 福井県日野中学校 川島賢一	1A教室
2	教科指導と バズ学習 (音美体技家)	尾崎市日新中学校校長 前田義夫 広島県教育委員会 横手進次郎 竹原市竹原中学校校長 秋月政夫 広島県生口中学校校長 重友則貞	竹原市 教育委員会 沢田 隼二	広島県豊浜中学校 松尾 誠	音楽室
3	地域ぐるみの教育と バズ学習	姫路市高丘中学校校長 小松三郎 広島県教育委員会 宮本厚志 広島県安浦中学校校長 榊田忠昭	竹原市 吉名中学校 春田一昭	新潟市曾野木中学校 舟越和吉 広島県豊浜中学校 望月秀晃	1B教室
4	復習バズの ねらいと運営	春日井市東部中学校校長 梶田稲司 広島県教育委員会 高橋一郎	広島県 豊中学校 横手、茂	善通寺市東中学校 丸岡 哲 春日井市坂下中学校 長縄好隆 岩見沢市上幌向中学校 川上鷹司 広島県豊中学校 ✓反田詔三 掛川市三笠中学校 海野英太郎	1C教室

分科会	テ ー マ	助 言 者	司 会 者	発 表 者	場 所
5	学級会活動と その運営	元東京都板橋区 西台中学校校長 岩崎利雄 広島県教育委員会 深川 勇 広島県川尻中学校校長 出来尾 稔 広島県本郷中学校校長 戸野広 明	広島県 豊中学校 上野 善作	高知県奈半利中学校 室戸市吉良川中学校 菊井 既喜男 広島県木江中学校 道先 春彦	1 D 教室
6	必修クラブと バズ学習	龍野市教育委員会教育長 鈴木 武士 広島県教育委員会 河 隅 英 登 広島県東野中学校校長 松 岡 勲 広島県南中学校校長 福 永 登	広島県 川尻中学校 河原 力	尼崎市日新中学校 飛 永 照 広島県黒瀬中学校 荒石 久子 広島県南中学校 ✓大川 春治 広島県豊浜中学校 田中 俊治	2 A 教室
7	小学校部会	元徳島市福島小学校校長 四宮 恒夫 広島県教育委員会 繁村 昌彦 広島県豊島小学校校長 畑本 達磨	広島県 豊島小学校 小林 忠一	長崎市磨屋小学校 江口 勝介 姫路市安室小学校 吉田 武男 広島県忠海東小学校 藤村 旭 広島県豊島小学校 ✓坂本 卓夫	2 B 教室
8	小学校部会	豊川市平尾小学校校長 白井 仁 広島県教育委員会 持田 浩 広島県大浜小学校校長 米本 広之 広島県齋小学校校長 藤原 正信	広島県 大浜小学校 山科 基司	滋賀県五個荘小学校 石部 清和 善通寺市筆岡小学校 大前 精一 広島県豊島小学校 ✓徳森 丈人	2 D 教室

5 必修クラブ (第2日) 9:40 ~ 10:25

クラブ名	題 材 名	顧問教師	場 所
排 球 男 子	レシーブの要領	清田 滋	バレーコート
排 球 女 子	レシーブ練習	道法 幸恵	＃
庭 球 男 子	フラットサービス	松尾 誠	テニスコート
庭 球 女 子	グラウンドストローク	底押 正司	＃
卓 球 男 子	フォア打ちの要領	望月 秀晃	体 育 館
卓 球 女 子	フォア打ちの要領	鎗野健次郎	＃
剣 道	かかりげいこ	田中 俊治	＃
ソフトボール	基本練習と一学期の反省	井原 多澄	ソフトボールコート
体 操	後転とび	土井 慶嗣	体 育 館
美 術	班毎の製作	吉川 和治	1 C教室
新 聞	校内新聞第2号の批評会	榎 勝博	2 B教室
英 会 話	外人に出会った時の応待	荒田 亮達	3 A教室
書 道	文字の書き方, 配列のし方	大成 治	2 A教室
家 庭	テーブルセンターの製作	藤田 員代	家 庭 科 室
科 学	班毎の研究テーマによる実験・観察	寺田 勝彦	第 一 理 科 室
社 会	富士山の立体断面をつくる	林 義浩	研 究 学 級
音 楽	希望のささやき(二部合唱)	大瀬戸澄子	音 楽 室
読書・文芸	編集後の反省	橋浜 正人	3 B教室
昆 虫 採 集	標本の整理	望月 民雄	生 徒 会 室

6 町内バス (第2日) 11:10 ~ 11:40

参観場所	移 動 の 方 法	参観者割当	担 当 者
山崎・登照寺	徒 歩	分科会1の㉔	底押正司 道法幸恵
小浦・公民館	＃	＃ 6	松尾 誠 山根正純 吉川和治
小浦・室原神社	＃ ・ 車	＃ 5	田中俊治 望月民雄 藤田員代
小浦・良鎮寺	＃ ・ 〃	＃ 3・4	望月秀晃 大成 治
小浦・旧役場	＃ ・ 〃	＃ 2	荒田亮達 橋浜正人 大瀬戸澄子
内浦・本覚寺	船	＃ 1の㉕	林 義浩 土井慶嗣
内浦・農 協	＃	＃ 1の㉖	寺田勝彦 鎗野健次郎
立花・説教場	＃	＃ 8	山根 正 井原 多澄
大浜・農 協	＃	＃ 7	榎 勝博 清田 滋

7 パネルディスカッション (第2日) 13:00 ~ 14:30 (体育館)

「テーマ」創造力を高めるバズ学習

助言者 名古屋大学教授 塩田芳久先生

司会者 竹原市吉名中学校校長 福島正信

○東京都小平市第6中学校 望月和三郎

○東京都板橋区立高島第2中学校 高橋伸幸

○春日井市藤山台中学校 萩原克己

○春日井市東部中学校 加藤孝史

○姫路市高丘中学校 石本敬三

○広島県教育委員会 佐藤正由

○広島県豊中学校校長 新田正彦

○広島県豊浜中学校 山根正

○ " " 松尾誠

○ " " 林義浩

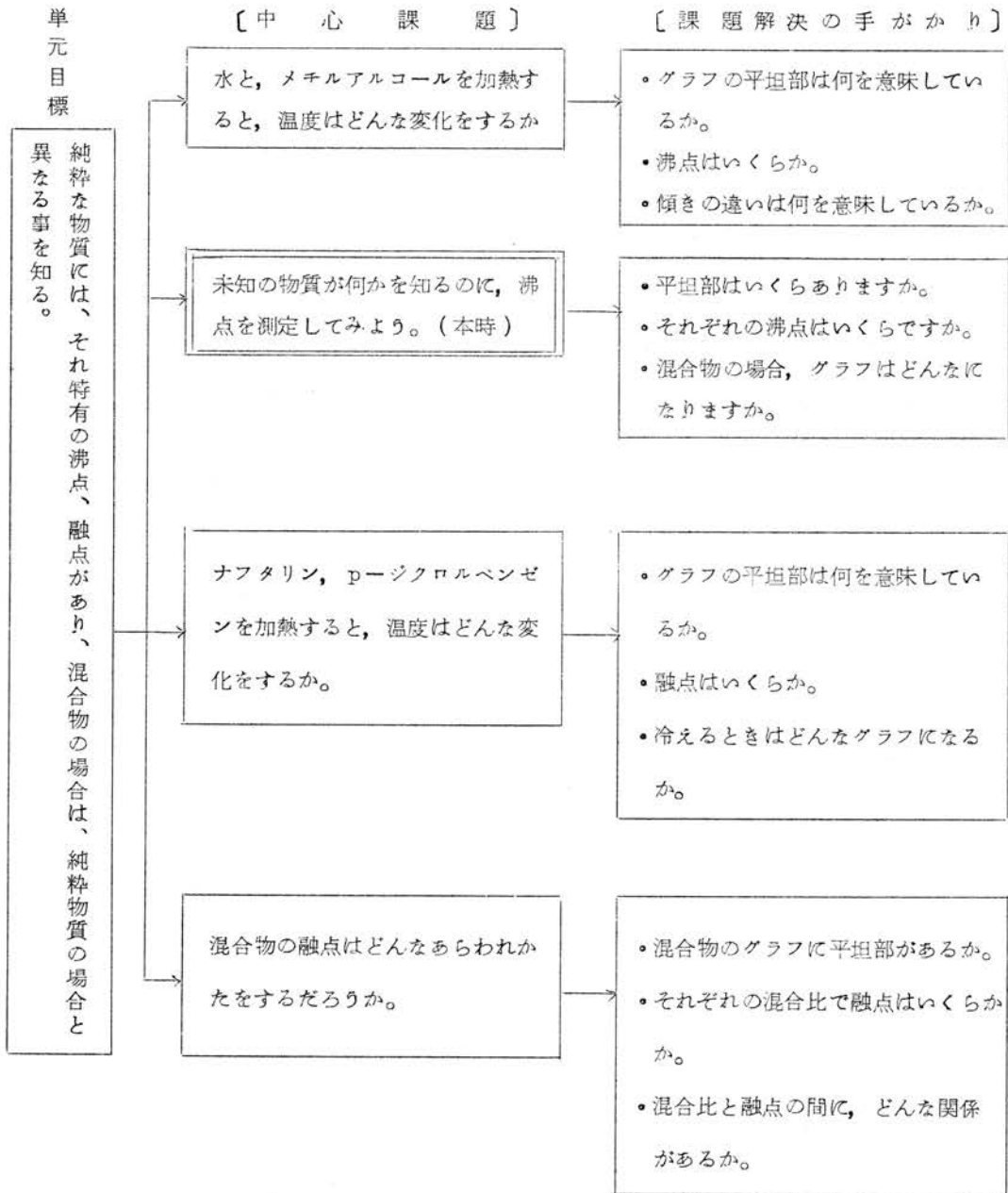
8 講演 (第2日) 14:30 ~ 15:30 (体育館)

講師 名古屋大学教授 塩田芳久先生


演題 指導目標としての認知と態度

10 公開授業

1年 理科 課題一覧表 単元 「混合物の沸点」



29名

4人 Gr. 

理科学習指導案

指導者 山根 正純

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 1年A組 男子13名 女子17名 計30名(7班)
3. 単 元 混合物の沸点
4. 目 標

純粋な物質にはそれぞれ特有の沸点・融点があり、混合物の場合は純粋物質の場合と異なる事を理解させる。

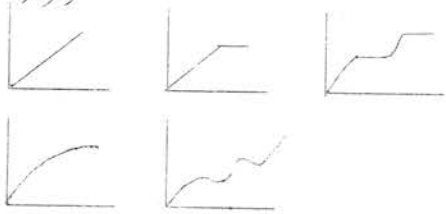
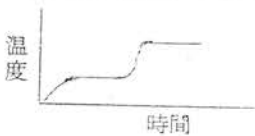
5. 指導計画 物質の沸点と融点 5時間
 - 1 純粋な物質の沸点 1時間
 - 2 混合物の沸点 1時間 (本時)
 - 3 純粋な物質の融点 2時間
 - 4 混合物の融点 1時間

6. 本時の目標

未知の物質が何かを知る方法の一つとして、沸点の測定を行ない。

混合物の場合の温度変化は階段上になることを理解させる。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<p>液体があります。何の液体だろうか。</p> <p>〔課題の分析・把握〕</p> <p>それを確認するにはどうすればよいか</p> <p>沸点 グラフの解釈 } 説明</p>	<p>水, アルコール</p> <p>沸点を測定する</p>
中心段階	<p>未知の物質が何か知るのに沸点を測定してみよう。</p> <p>〔予想〕</p> <p>各自でどんなグラフになるか図をかいてみよう。</p> <p>〔仮説〕</p> <p>各班で仮説を立てよう</p> <p>〔資料集めと整理〕</p> <p>沸点の測定実験</p> <p>温度と時間の関係をグラフに記入</p> <p>〔考察〕</p> <p>グラフから考えられることは何だろうか。</p> <p>各班でバズをしてみよう。</p> <p>〔結論〕</p> <p>グラフが階段状になり混合物である。</p>	<p>グラフ</p>  <p>・引火性の物質をあつかうので注意しながら実験を行なう。</p> <p>・各班1名 OHPのシートに実験結果を記入する。</p>
確認段階	<p>次のグラフは純粋物質か混合物か、又沸点は何度か。</p> 	<p>各自で考える。</p>
	<p>次時の予告。物質を知る手がかりの一つである融点について学習する。</p>	

単元 「図形の移動」

目標

図形の移動の性質について調べてみよう。

〔中心課題〕

〔課題解決の手がかり(主要発問)〕

平行移動の方法を考え、作図せよ。また線分と線分、点と点の対応を調べよ。

(本時)

- 平行移動とは何か。
- 曲線図形、線分、三角形を平行移動してみよう。

平行移動の性質を調べよ。

- 対応する点や線分の間に関係があるか。

回転移動の方法を考え、作図せよ。また、点と点、線分と線分の対応を調べてみよう。

- 回転移動とは何か。
- 曲線図形、線分、三角形をそれぞれ 60° 回転移動させてみよう。

回転移動の性質を調べよ。

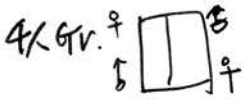
- 対応する点や線分の間に関係があるか。

対称移動の方法を考え、作図せよ。また、点と点、線分と線分の対応を調べてみよう。

- 対称移動とは何か
- 曲線図形、線分、三角形を対称移動させてみよう。
- 線対称移動と点対称移動と回転移動の三つの間の関係はどうなっているか。

対称移動の性質を調べよ。

- 対応する点や線分の間に関係があるか。



数学科学習指導案

授業者 清 田 滋

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 1年B組 男子14名 女子16名 計30名
3. 単 元 平面図形
4. 目 標
 1. 図形についての基礎的な用語、記号の意味を理解させる。
 2. 平行、対称および回転の移動により、図形の相互関係や性質を見いださせる。
 3. 定規とコンパスを使って基本的な図形の作図ができ、その作図法が正しいことを三角形の合同条件などを用いて確かめられるようにする。
 4. 平行や合同という関係で、図形の集合を類別することによって、図形についての理解を深める。

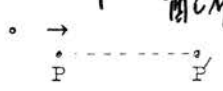
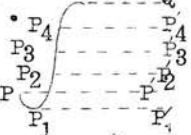
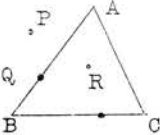
5. 指導計画

- 図形の基礎..... 5時間
- 図形の移動..... 6時間
 - 1 平行移動 — 2時間(本時 $\frac{1}{2}$ 時分)
 - 2 回転移動 — 2時間
 - 3 対称移動 — 2時間
- 図形の基本的な性質..... 6時間
- 図形の書きかた..... 3時間

6. 本時の目標

- 平行移動の意味と平行移動した図形を作図し、点と点、線分と線分の対応を理解させる。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> 課題一覧表で本時の目標を示す 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する。
中心段階	<p>作図用紙の配布 → 平行移動とは何か</p> <p>→</p>  <p>図形を点集合とみた時の基本になるもの 1対1対応の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの図形を一定の方向にある距離だけずらす移動のことを平行移動という。 <p>平行移動の方法を考え、作図しよう。</p> <p>できるだけ多くの点をとって、その対応する点を結ぶことにより平行移動された曲線を得る。</p>  <p>線分は2点で決定されるが、ここでは点と点の対応に目をつけてたくさんの点をとらせる。</p>	<p>← 三角形を用いて平行移動の方向を平行移動してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 点Pを→の方向に3cm移動してみよう。 点Pを()の方向に()cm移動したらPにもどるか。 <p>← 1-1対応させよ (平行移動は何かと何がきまればそれができるか)</p> <p>← 図形の平行移動の方向と距離を5つの点で決める</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲線図形を平行移動する (空Rの平行移動) どうすればより正確な図形が得られるか。 班別バズ (どの点とどの点を結ぶか?) 線分を平行移動する。 A, Bの対応点をとって、それを結んだだけではいけないか。 作図でわかりにくいところは班内で相互に教え合う。 班内バズ 三角形を平行移動する <ul style="list-style-type: none"> (1) 頂点A B Cはどうなるか。 (2) 外部の点Pはどうなるか。 (3) A B上の点Qはどうなるか。 (4) 内部の点Rはどうなるか。 
	確認段階	<p>いろいろな図形を平行移動してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 机間巡視し、意欲的にやっているかを見る。 理解の程度をみて助言指導する。 点と点、線と線の対応に気付かせる。 次時への予告

教師の観察
かたがた
有知下りか
準備段階
「誰か」と
中心で
いじりか
準備の
準備
4人の比較
できた者は
存在しない
他の生徒は
やらない

三角形を用いて平行移動の方向を平行移動してみよう
平行移動は何かと何がきまればそれができるか
図形の平行移動の方向と距離を5つの点で決める

1年 美術科 課題一覧表

単元 「私たちの生活を版画にしよう」

目
標

[中心課題]

[課題解決の手がかり]

〇〇 版画を作ることに
よって新しい絵画表現を
求める。

作文によって主題を深める。

お互いに意見を交換し合おう
友達の意見を参考にして考えを深めよう。

下絵をかく
(主題を表現する)

自分の主題をどのように表現したらよいか考えよう。墨でおおまかにかこう。

下絵写し

コンテで下絵を版に写そう。
彫る所、彫らない所を考えよう。

彫り

彫刻刀の使い方を考えよう。
黒白の割合を考えよう。

ためし刷りをして修正彫りをする
(本時)

どのように彫っているか一度刷ってみよう。また彫っていない所、直す所はないかみよう。

本刷り

・掲示ができるように仕上げよう。
・刷りをていねいに仕上げよう。

鑑賞

・主題をどのように表現しているか見てみよう。
・彫り、刷りの仕方を全員で見てみよう。

美術科学習指導案

授業者 吉川和治

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 1学年C組 31名 (男14 女17)
3. 単 元 私達の生活を版画にしよう。

4. 目 標

- ・木版を作ることによって、刀の使い方、刷りなどの経験を深める。
- ・自分達の生活について意見を出して考えを深めあい、各自が個性的な絵画表現を求める。

5. 指導計画 (12時間)

- | | | |
|----|---------------------|----------------|
| 1次 | 作文によって主題を深める | 1時間 |
| 2次 | 下絵をかく(主題を表現する) | 1時間 |
| 3次 | 下絵写し(コンテで下絵を版に写す) | 2時間 |
| 4次 | 影 り (版を作る) | 4時間 |
| 5次 | ためし刷りをして修正影りをする | 2時間(本時はその1時間目) |
| 6次 | 本刷り (掲示ができるようにする) | 1時間 |
| 7次 | 鑑 賞 (主題をどのように表現したか) | 1時間 |

6. 本時の目標

- ・今までの影りで版画がどのようになっているか一度刷ってみよう。
- ・班の中でお互いの作業について意見を出し合い全員でよい作品を作ろう。

7. 学習過程

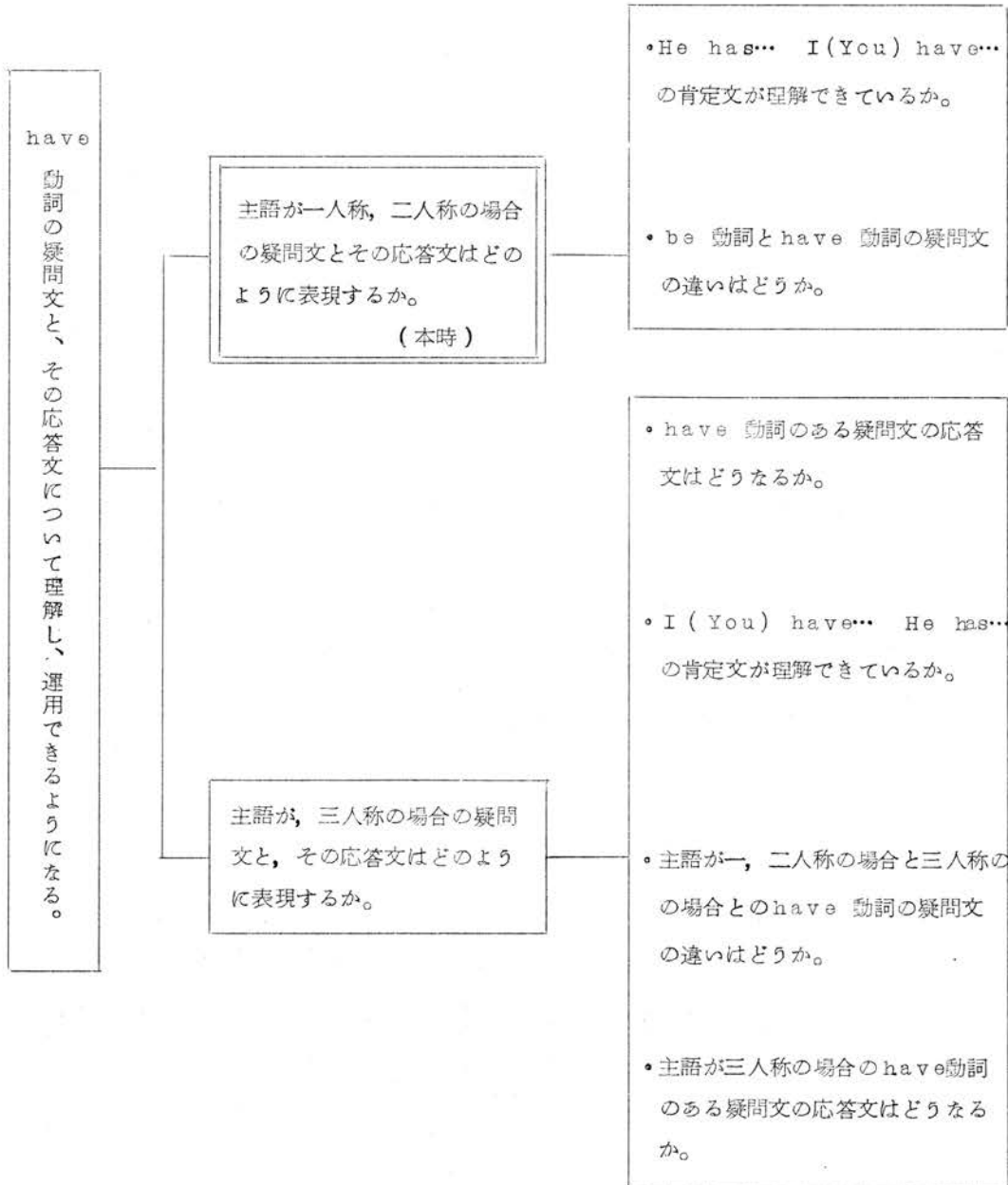
	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<p>クロッキーをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視 ・細かい所は気にしないよう注意 ・生徒の作業の進み具合を確認 ・本日の課題の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆で人物を短い時間内でかく ・教科委員中心に進める ・彫りの過程でまだ仕上がっていない所はないかみる。
準備段階	<p>主題を再確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題をはっきり確認させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・下絵，作文をみて確認 ・お互いの作品をみて考える
中心段階	<p>刷りの用具の使い方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刷りの用具の名称を教える ・刷る時に考えることを板書 ・刷る時の注意 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の使い方を班で考える ・発表…なにに使用するものかを確認
中心段階	<p>ためし刷りをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班での活動を指導（机間巡視） 途中で意欲をなくしている生徒遅れている生徒に留意する。 ・正しい用具の使い方を指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように用具を使ったらよいか実技の中で考える。 ・班員が全員で取りくむ。 ・気づきをメモする。 ・班の中で考えたことを発表
確認段階	<ul style="list-style-type: none"> ・次時への作業のつながりをもたせる。 <p>修正彫りの場所をさがそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修正彫りの観点を板書し説明 ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の仕事の確認 ・ためし刷りと下絵を比べる。 ・班員のバズによって全員が修正彫りの場所を確めあり。 ・次時への作業のつながりを知る。

単元 「Lesson 8」

目標

中心課題

課題解決の手がかり



英語科学習指導案

授業者 鎗野 健次郎

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 1年D組 男子14名 女子16名 計30名
3. テキスト New Horizon 1
4. 単 元 Lesson 8
5. 目 標 have動詞の疑問文と、その応答文について理解し、選用出来る能力を養う。
6. 指導計画 (3時間)

Lesson 8

- 主語が二人称の場合の have 動詞の疑問文 1時間
とその応答文について (本時1時限目)
- 主語が三人称の場合の have 動詞の疑問文
と、その応答文について 1時間
- 単元の総復習 1時間

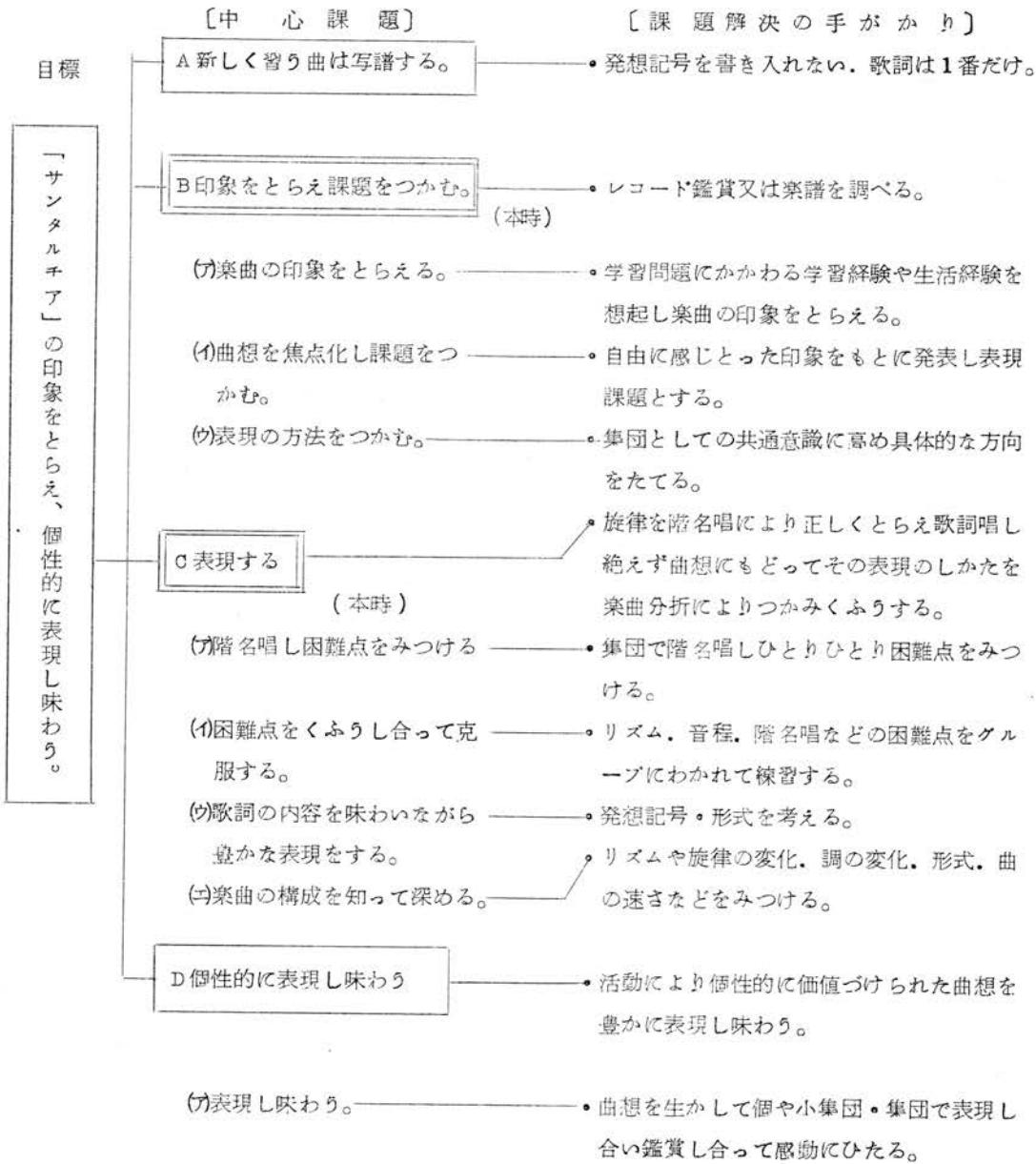
7. 本時の目標 主語が二人称の場合の have 動詞の疑問文と、その応答文について理解し、選用出来るようになる。
8. 本時の教材

I have a camera.
Do you have a camera?
Yes, I do.
Do you have an album?
Yes, I do. I have an album.
Do you have a piano?
No, I don't.
Do you have an organ?
No, I don't.
I don't have an organ.

9. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<p>復習</p> <p>have 動詞を用いた肯定文を再確認する。</p> <p>1. Reading ・前課を音読させる</p> <p>2. Oral Composition ・本を閉じさせ、絵を示して前課の内容を日本語で示し英語で発表させる。</p>	<p>1. • Choral Reading • Individual Reading</p> <p>2. He has a car. This is his car. I have a ball. This is my ball. I have a piano. You have a piano, too.</p>
	<p>教材</p> <p>have 動詞のある疑問文は、どのようになるか。</p> <p>1. Oral Introduction I have a camera. Do you have a camera? ・絵を示しながら、意味をわからせる。</p> <p>2. Mim-men ・口頭で繰り返し、慣れさせる。</p> <p>3. Conversion ・肯定文を疑問文に転換させる</p>	<p>1. 班内で考え、意味を発表する</p> <p>2. 教師の指示に従って模倣練習する</p> <p>3. 教師の指示に従って、転換練習する</p>
中心段階	<p>疑問文に対する応答文はどう表現するか。</p> <p>1. be 動詞の場合と対比しながら板書してわからせる ・カードを用いて新語を発音練習させる</p> <p>2. Oral practice ・T-P dialogue からP-P dialogue</p> <p>3. 本文のReading</p>	<p>1. 板書事項を発音練習する。 You have a camera. Do you have a camera? Yes, I do. No, I don't.</p> <p>2. 隣接法で問答練習する。 Do you have a pencil? Yes, I do. Do you have a car? No, I don't.</p> <p>3. 本文の意味を考えながら読む練習 ・ Choral, Individual Reading</p>
	<p>今日、学習したことを確認しよう。</p> <p>1. 板書事項をノートに書きとらせる</p> <p>2. 日本語を示し、英文で書き改めさせる</p> <p>3. 机間巡視 ・次時の予告をする。</p>	<p>1. ノートに書き写す</p> <p>2. Do you have a book? Yes, I do. Do you have a car? No, I don't. I don't have a car.</p>
確認段階		

単元 「サンタルチア」



音楽科学習指導案

授業者 大背戸 澄子

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 2年A組 男子17名 女子21名 計38名
3. 単 元 「サンタルチア」
4. 目 標

1. 西欧、南欧の民謡の特色について理解させる。
2. イタリア民謡に対する理解を深める。
3. $\frac{3}{8}$ 拍子を理解させリズムに慣れさせる。
4. 明るく響きのある声で、美しく表現する。

5. 指導計画

- ・西欧、南欧の民謡の特色について
 - ・ $\frac{3}{8}$ 拍子の理解
- 1時間
- ・イタリア民謡の理解
 - ・明るく響きのある声で美しく表現する
- 2時間
(本時1時限目)

6. 本時の目標

曲想をレコード鑑賞をとおして感得し「サンタルチア」の歌い方をくふうする。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> • 十分声を出させ気分をととのえる。 • 理解出来ているかたしかめる 	<p>「若者達」 (3部合唱)</p> <p>「峠のわが家」 (斉唱)</p> <p>$\frac{3}{8}$拍子について</p>
中心段階	<p>「サンタルチア」の特徴を生かして歌おう。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> • 今日「サンタルチア」を歌おうと思うがこの曲で知っていることがあるか。 • どんな感じの曲かレコードを聞こう。 • 曲想を焦点化し課題をつかむ (バズー 一斉) • グループ練習 (皆んなで協力してどんな曲になるかやっごらん) (♭や#のついた所4度、6度の音程の不安定な所の指摘) (巡視をしながら方法上のことや困難点の克服状況に助言をしてやる。) 	<p><u>把握</u></p> <p>「サンタルチア」で知っていることをあげる。</p> <p><u>予想</u></p> <p>声の質、歌い方、楽曲の印象をとらえ話し合う。</p> <p><u>仮説</u></p> <p>自分の写譜したノートに感じた発想記号を記入する。</p> <p><u>資料集め</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 前半と後半に分ける。 • 強弱や、アクセントの歌い方のくふう • 前半と後半の旋律の対照を明確にとらえ表現する。 <p><u>整理</u></p> <p>曲想のまとめ バズ</p>
確認段階	<p>斉 唱</p> <p>次時予告</p>	<p><u>結論</u></p> <p>明るい歌声、明瞭な発音で歌う</p> <p>強弱の対比 を生かして表現する。</p>

単元 「水にすむ昆虫」

小の
単目
元標

文章全体の組み立てに注意して、説明の中心の部分と付加的な部分とを読み分ける。

〔中心課題〕

〔課題解決の手がかり(主要発問)〕

文章を読み内容を大づかみする。

- 難しい漢字の読み, 意味を調べよう。
- 大きい段落, 小さい段落に分けよう。

昆虫は「浸透圧の問題」をどのように解決しているか。

(本時)

- 「浸透圧の問題」が書いてある部分はどこか。
- 昆虫にとって浸透圧の問題とは
- 浸透圧の問題解決の方策は

昆虫は「呼吸の問題」をどのように解決しているか。

- 「呼吸の問題」が書いてある部分はどこか。
- 水中で呼吸するため, どの昆虫がどのような方法をとっているか。

この文章全体の「組み立て」をまとめる。

- 文章全体を表にまとめてみよう。

動植物の生態について, 自分で研究課題をさがそう。

- 自分が動植物の生態について, どんなことに一番興味をもっているか。
- 自分の課題を解するためには, どんな本を調べたらよいか。

国語科学習指導案

授業者 榎 博

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 2年B組 男子17名 女子20名 計37名
3. 単 元 8 組み立てをとらえる。
4. 目 標

説明的な文章や論説文の論理的な組み立てに注意し、書かれている事からを整理しながら読み進める力を養う。

5. 指導計画

- 水にすむ昆虫 6時間
- 考える筋道 2時間
- 少年のみなさんへ 3時間

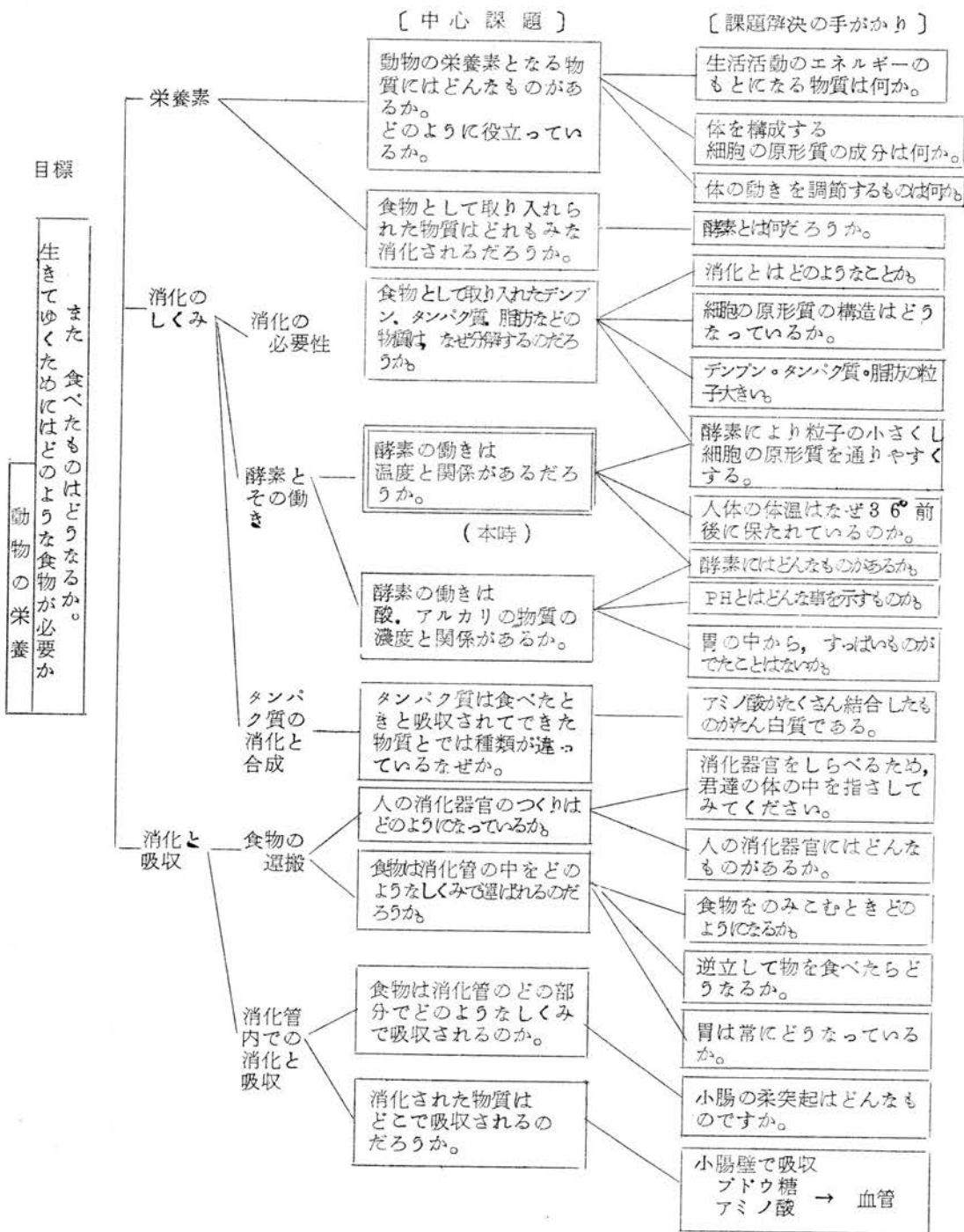
6. 本時の目標

昆虫は「水の問題」をどのように解決しているか、を説きとる。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を思い出させる <p>昆虫が水の世界に生きるためにはどうい 問題があったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ノートを見て前時の学習を思い出す。 <p>「浸透圧の問題」「呼吸の問題」</p>
中心	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">昆虫は「水の問題」をどのように解決しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明の中心の部分と付加的な部分とを読み分けるよう指導する。 <p>「浸透圧の問題」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> 蒸発の問題とは 耐水性の皮膚とは <p>以上3点に注意して、昆虫が蒸発の問題を解決する方策が同時に水の世界への進出を可能にしたことをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 足りないところを補う。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な箇所に線をひきながら「浸透圧の問題について書かれているところを黙読する <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>昆虫が水の世界に進出するため「浸透圧の問題」をどのように解決しているか理解する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 個人でノートにまとめる。 班でバズする 班でまとめたものを全体へ発表 全体でまとめる。
確認	<ul style="list-style-type: none"> 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの整理 各班で本時の学習を確認 次時の学習の目標をつかむ。

単元 「動物の栄養」



理科学習指導案

授業者 寺田 勝彦

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 2年C組 男子17名 女子20名 計37名
3. 単 元 動物の栄養
4. 目 標 動物が生きていくためのエネルギー源として、体を作る材料として、有機化合物を食物として取り入れる事が必要である事、また取り入れた食物を各細胞に取り入れやすい形にしなくてはならない。そのための働きが消化であると言う事を理解させ、その器官のつくりのしくみをヒトの体を中心にして考察さす。

5. 指導計画

動物の栄養

第1次	栄養素	1時間
第2次	消化のしくみ	消化の必要性 1時間
		酵素とその働き 1時間(本時)
		タンパク質の消化と吸収 1時間
第3次	消化と吸収	食物の運搬 1時間
		消化管内での消化と吸収 1時間

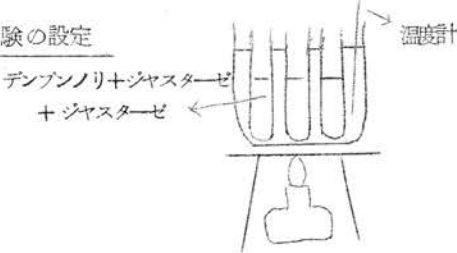
6. 本時の目標

- ◎ 栄養分の分解が主体内の酵素の働きである事を実験を通して理解さす。
- ◎ 酵素の働きを規制する条件に付、温度が関係する。
- ◎ 班長を中心にして、実験や班内での話し合いが、男女協力してできる態度を養う。

7. 準備物

ヨウ素液, デンプンノリ溶液, ジャスターゼ溶液, 試験官, メスシリンダー,
ビーカー, ピペット, ガラス棒, ろ紙, 温度計, アルコールランプ,
アスベスト三脚, OHP

8. 学習過程

教師の活動	生徒の活動												
<p>前時との関連</p> <p>デンプンを糖に変化させるものは何ですか。</p> <p>酵素…酵素の種類にはどんなものがあるか</p> <p>ジャスターゼの説明</p>	<p>だ液</p> <p>ジャスターゼ</p> <p>個人→バス</p> <p>酵素の働きを規制する条件にはどんなものが考えられるか。</p> <p>温度 濃度量</p>												
<p>今日は酵素の働きを規制すると思われる温度について調べていきます。教科書P176, デンプンの消化と温度との関係を見て予想・仮説を立ててください。</p>	<p>温度</p> <p>時間分</p>												
<table border="1"> <tr> <td>温度</td> <td>5</td> <td>15</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>時間分</td> <td>375</td> <td>66</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>1.5</td> </tr> </table>	温度	5	15	25	35	45	時間分	375	66	26	8	1.5	<p>仮説</p> <p>温度が高くなれば酵素の働きが大きくなる。</p> <p>仮説</p> <p>完全にノートを書きす</p>
温度	5	15	25	35	45								
時間分	375	66	26	8	1.5								
<p>酵素の働きと温度の関係を調べるためには、どんな実験をしたらよいですか。</p> <p>注意事項…条件をコントロールを要因について主体的に話し合わせる。</p> <p>試料 デンプン+ジャスターゼ</p> <p>実験上の注意</p>	<p>班毎に</p> <p>45℃ 55℃ 65℃ 85℃ の温度条件を与え二つの班が1つの温度を行う。</p> <p>3本の試験管内</p> <p>2本 デンプンノリ+ジャスターゼ</p> <p>1本 デンプンノリ+だ液</p> <p>温度を一定に保つ</p> <p>時間(あらかじめ書いておく)</p> <p>資料を落とす</p> <p>ヨウ素液を落とす</p>												
<p>実験の設定</p> 	<p>測定</p> <p>グラフ化</p> <p>グラフの解釈</p> <p>時間</p> <p>反応温度</p> <p>全体で討議</p> <p>実験データを班でグラフにして見る(OHPシート)記入 グラフから考えられることを班で討議</p>												
<p>まとめ</p> <p>規則性の発見</p>	<p>各班・個人の意見の発表</p> <p>各自ノート</p>												
<p>後片付け</p> <p>次時の予告</p>	<p>酵素の働きには、温度が関係しており、酵素のもっともよく働く温度範囲は決っている。</p> <p>酵素の働きは濃度とどんな関係にあるか。</p>												

2年 社会科 歴史 課題一覧表

単元 「封建社会の始まり」

小の
単目
元標

新しい文化の発達があったことを明らかにする。
平氏滅亡によって公家と対立する武家政権が確立し、そのもとで産業の進歩と

〔 中心課題 〕

〔 課題解決の手がかり 〕

平氏滅亡の原因となったのは、どのようなことか。

- ・平氏はどのようにして政権をにぎったか。
- ・貴族や武士はその政治をどう受けとめたか。
- ・源氏の挙兵はどのようにであったか。

鎌倉幕府の成立とそのしくみはどうなっていたか考えてみる

- ・どのような役所をつくったか。
- ・なぜそのような役所をつくったか

守護、地頭の設置により地方の政治はどう変化したか。
(本時)

- ・守護、地頭をどうして設置したか
- ・守護、地頭の配置により農民はどうであったか。

北条氏はどのような政治をし幕府の実権を握ったか。

- ・執権政治とはどのようなものか。
- ・承久の乱はどのように起こったか。
- ・御成敗式目を何のために定めたか。

武士は土地をもとにしてどのような関係にあったか考えてみる。

- ・日常生活がどのように行なわれていたか。
- ・將軍、御家人、従者の関係はどのようなであったか。

産業が発達する中で農民の生活はどうであったか。

- ・どんな産業が発達したか。
- ・どういうことから生産がふえてくるようになったか。
- ・農民の抵抗が活発になったのはどうしてか。

鎌倉仏教はどんな特色をもち新しい仏教の起った原因について考える。

- ・新しい仏教が育ったのはなぜか。
- ・どういう人によりどんな仏教が起ったか。
- ・武士や農民たちが敬仰した仏教はどんなものか。

鎌倉文化はどんな特色を持っているか考えてみる。

- ・文学・芸術・学問にはどんな作品があるか。
- ・鎌倉時代の文化の2つの流れはどのようなものであるか。

社会科学習指導案

授業者 望月 秀晃

1. 日時 昭和47年8月2日(水)
2. 学年 2年D組 男子17名 女子20名 計37名
3. 単元 封建社会の始まり
4. 目標 鎌倉幕府の政治、武士の生活、鎌倉時代の文化などの学習を通して鎌倉幕府が成立し、しだいに武家政治が公家政治にかわって発展していったことを理解させる。

5. 指導計画

平氏の滅亡……………1時限目	産業の発達……………5時限目
鎌倉幕府の成立……本時	新しい仏教……………6時限目
北条氏の政治……………3時限目	鎌倉時代の文化………7時限目
武士の生活……………4 #	

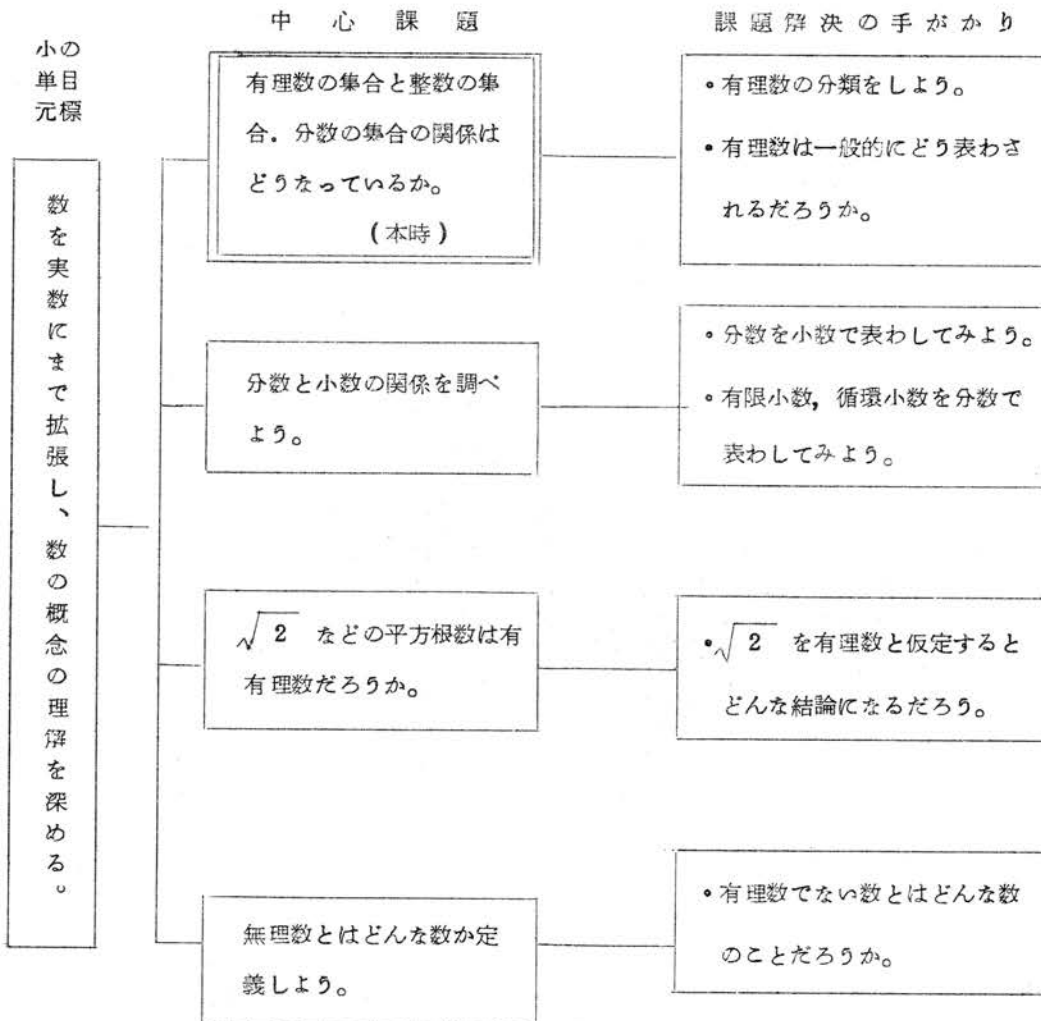
6. 本時の目標

鎌倉幕府は地方支配のために守護、地頭を配置し、公武の二元的な支配機構であったことを理解させ農民の暮らしにふれさせる。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> • 班毎にはやく行なわせる。 • 授業内容を高めるためにはっきりつかませたい。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">幕府の地方のしくみについて考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 守護、地頭の配置をどのようにしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 復習を全体で確認……教科委員発表 • 予習課題を点検する。 • 学習目標を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> • 守護、地頭をおいた所を調べてみる。
中心段階	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">守護や地頭の設置によって地方の政治はどう変化したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 守護、地頭の配置により地方の国はどうなったか。 • 守護、地頭の配置により農民はどうであったか。 • 仮説を立てたかどうか確認する。 • 資料の見方を提示する。 • 意見を全体で討議させ、新しい考えを出させる。 • 結論をみちびき出させる。 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分析把握</p> <ul style="list-style-type: none"> • 守護、地頭の役割、設置の理由を考えてみる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">予想</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教師の発問にもとづいて予想を立てる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> • たくさん立てた予想の中から仮説を1つにしぼる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料集め</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教科書P80～81 資料を見る。 • バズを試してみる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">追求</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しい考えを出す。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">整理</p> <ul style="list-style-type: none"> • 班でつき合わせ結論をみちびき出す。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">結論</p> <ul style="list-style-type: none"> • 守護、地頭の設置により、地方支配が進み公武の二重的な政治支配が生まれ、そのため地方の人々の生活はこまった。
確認段階	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習内容をまとめる。 • 学習内容の定着化をはかる。 • 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> • カードをつき合わせバズし確認する。 • 自己評価をする。 • 次時は農民のくらしを具体的に学習します。

単元 「実数」



数学科学習指導案

授業者 井原多澄

1. 日時 昭和47年8月2日(水)
2. 学年 3年A組 男子17名 女子18名 (計35名)
3. 単元 実数
4. 目標

- 有理数の集合と整数の集合、分数の集合との関係をまとめる。
- 分数を小数で表わすと、有限小数か循環小数のどちらかになる、逆にどんな有限小数も循環小数も分数で表わすことができることを理解する。
- 2 などの平方根数は有理数でないことを理解する。
- 無理数とは無限非循環小数であることを知り、平方根数は無理数の一部分であることを推定する。

5. 指導計画

- | | |
|----------|----------------|
| (1) 有理数 | 2時間(本時はその第1時限) |
| (2) 無理数 | 2時間 |
| (3) 練習問題 | 1時間 |

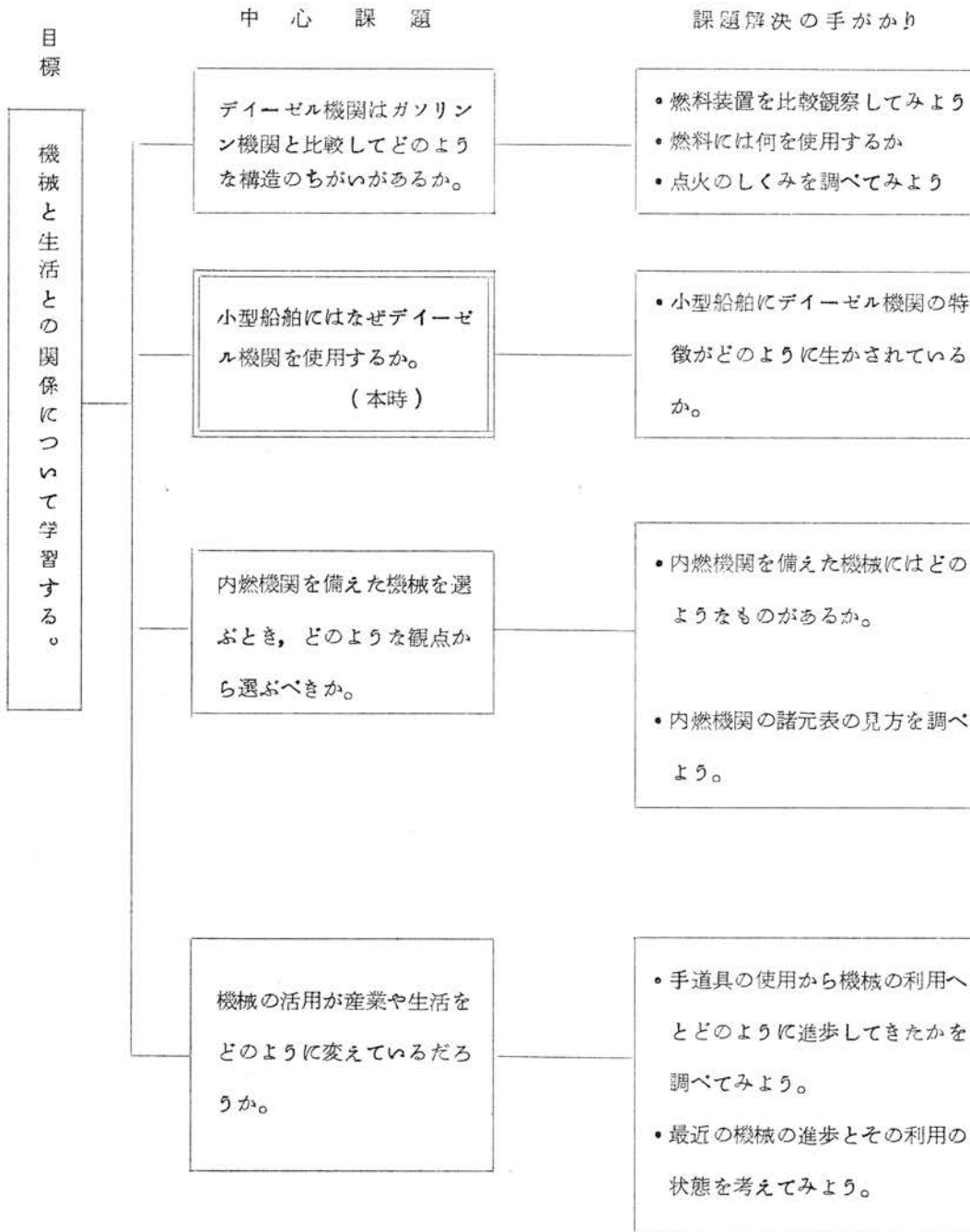
6. 本時の目標

数の拡張精神を考え有理数を分類し、有理数が一般的に、 $\frac{m}{n}$ (m は整数、 n は正の整数)と表わされることを理解する。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動								
準備段階	<p>○プリント配布</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>今までに学習した数をすべてあげてみよう</p> </div> <p>○有理数について学習することを知らせる。</p>	<p>(1)個人でプリントに記入する。 (2)班ごとにまとめる。 (3)発表する。 (4)これらの数の意味がすべて理解できているか話し合う。</p>								
中心段階	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>有理数の分類をしよう</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>正の整数(自然数)</td> </tr> <tr> <td>整数</td> <td>{ 0</td> </tr> <tr> <td>有理数 {</td> <td>負の整数</td> </tr> <tr> <td>分数</td> <td></td> </tr> </table> </div> <p>○数の拡張精神を考えさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> •数の自閉性 •整数の離散性, 有理数の稠密性 (一斉, OHP) <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>有理数は一般的にはどのように表わせるだろう</p> $\frac{m}{n} \quad (m \text{ は整数, } n \text{ は正の整数})$ </div>		正の整数(自然数)	整数	{ 0	有理数 {	負の整数	分数		<p>(1)班ごとに分類し, 発表する(OHP) (2)班ごとに分類したものをそれぞれの仮説としてその分類の仕方でよいか考える。 •代数的構造の立場から考える。 •位相的構造の立場から考える。 (3)再度, 分類しそれぞれの仮説の検証をする。</p>
	正の整数(自然数)									
整数	{ 0									
有理数 {	負の整数									
分数										
確認段階	<p>○本時のまとめをする。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	<p>○有理数は$\frac{m}{n}$と表わされたことを確認する。</p> <p>○次時は分数と小数の関係について考えることを知る。</p>								

単元 「機械と生活」



技術科学習指導案

授業者 松尾 誠

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 3年B組 男子17名
3. 単 元 機械と生活
4. 目 標 内燃機関を中心とした機械技術の進歩のあとをふりかえり、その進歩を促した原動力は何か、機械が人間生活の中でどんな役割を果たしてきたか、そして将来はどうかなどについて考えさせる。

5. 指導計画

ディーゼル機関のあらし	2
ディーゼル機関と小型船舶	1(本時)
内燃機関を備えた機械の選び方	1
機械と生活の関係	1

6. 本時の目標

ディーゼル機関が小型船舶(漁船、農船)に使用されている理由を考えさせること
によってディーゼル機関の特徴をつかませる。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の家にある漁船、農船の原動機はどのような歴史をたどってきたか、また現在はそのようなエンジンが使用されているかについて発表させる。 ディーゼル機関はどのような機関であったか発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小型船舶の原動機が人力、石油機関、ディーゼル機関と変ってきたこと、及び現在はディーゼル機関が主であることを知る。 燃料系統、点火方式等について発表する。
中心段階	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">皆さんの家の小型船舶にはなぜディーゼル機関が用いられるようになったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> どのような観点で課題を究明してゆけばよいのかをつかませる。 エンジンの重量、水に対する性質、振動の影響、燃料費等の観点から予想を立てさせる。 小型船舶にガソリン機関を使用するとどのような不便が生じるかという面からも考えさせる。 ディーゼル機関の欠点としてはどのようなことがあるかということについてもまとめてみさせる。 	<p>(課題の分析・把握)</p> <ul style="list-style-type: none"> ディーゼル機関の特徴が、小型船舶にどのように生かされているのかをつかめばよいことを知る。 <p>(予想)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対する予想をいろいろ立ててみる。 <p>(資料集め)</p> <ul style="list-style-type: none"> ディーゼル機関の機構上のあらましを思い出す。 教科書を調べてみる。 バズする。 <p>(整理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づき予想をチェックしてみる。 <p>(結論)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出力は大きく、重量は重いため船の安定性はよくなり、電火点火でないため少々の水にふれても漏電の心配はない。また燃料も重油で安いことを知る。
確認段階	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ディーゼル機関の特徴をまとめてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいがどの程度つかめているかの即時評価として受けとめさせる。 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接バズでお互いに説明し合う。 次時にはどのようなことを学習するかをつかむ。

3年 体育科 課題一覧表

単元 「陸上競技(障害走)」

目標

正しいハードリングとリズムカルにハードル間を三歩で走る。

中心課題

課題解決の手がかり

正規に近いハードル間を
三歩で走る。

- 補強運動はどんなものをすればよいか。
- 正しいハードリングはどうであったか。
- ハードル間を三歩で走る為にはどんな点に注意をすればよいか。

正しいハードリングを身
につける。

- 振り上げ足、抜き足はどのようにもってゆけばよいか。
- 踏み切りと着地の関係はどうか。
- ハードルを低く越すにはどうすればよいか。

ハードル間を三歩で走る
(本時)

- ハードル間を三歩で走る為にはスピードが必要である。
- スピードをつけるにはどんな点に注意すればよいか。

評価・反省

- ハードリング
- ハードル間の走法
- タイムレース

保健体育科学習指導案

授業者 道法幸恵

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 3年B組女子 18名
3. 単 元 陸上競技(障害走)
4. 目 標

- 正しいハードリングを身につけ、ハードル間を三步で走れるようになる。
- 自己の能力を知り、目標をもって互いに協力して練習を行ない、用具の安全な使い方、自他の健康、安全に留意して運動することができる。

5. 指導計画

- 二年生の復習……………1時間
- ハードリング……………1時間
- インターバル……………1時間(本時)
- 評価、反省……………1時間

6. 本時の目標

インターバルを3歩で走れるようになる。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> • 人員の確認。健康観察を行う • 本時の説明をする 	集合 あいさつ
中心段階	<ul style="list-style-type: none"> • 自主的、協力的、効果的に行なわせる 	<ul style="list-style-type: none"> • 準備運動をする
	<ul style="list-style-type: none"> • インターバルを三歩で走る為にはどんな点に注意をすればよいか。 • インターバルを3歩のリズムで走るため、インターバルの距離は能力により調節する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 前時の評価表を参考にする。 • スピードが必要である。スピードをつけるには、どんな点に注意すればよいか。 • 全力疾走に入るのはどの辺か。 練習バス（二人一組）
確認段階	筋肉を柔らかく、呼吸を整えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> • 適宜ハードルの台数を増していく • 各班で整理運動を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> • 次時の予告 • 責任をもたせ、協力して後片づけをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 反省会を行う 本時の態度、技能について あいさつ 解散

単元 「日本語の特色」

小の
単目
元標

中心課題

課題解決の手がかり

またこの文章の構成はどうか。問題点がありますか。

解らない読み。意味をなくそう。

- 前後の文章から考えてみよう。
- 辞書を利用しよう。

段落に分けてみよう。

- 一行あいている所で区切ってみよう。
- 全部で7段落あけます。

著者はどんな観点で述べていますか。

- 筆者はどのような方法を用いてどんな事項について述べているのですか。
- 文章の最初のほうを読んでもみよう。

日本語には、どんな特色や問題点がありますか
(本時)

- 日本語のどんな事項を取りあげていますか。
- 日本語の構造・敬語・単語・文字とその使い方・音声についてどんな特色や問題点をあげていますか。
- 例示の部分を抜きだしてみよう。
- 日本語と英語の相違点はどんな点ですか。

文章の組み立ては、どうなっていますか。

- 日本語の特色と問題点について書いてある段落をあげなさい。
- P170. 8行に「以上の日本語のおもな特色と思われる点をながめてきた。」とありますが、どこからどこまでのことですか。

国語科学習指導案

授業者 橋 浜 正 人

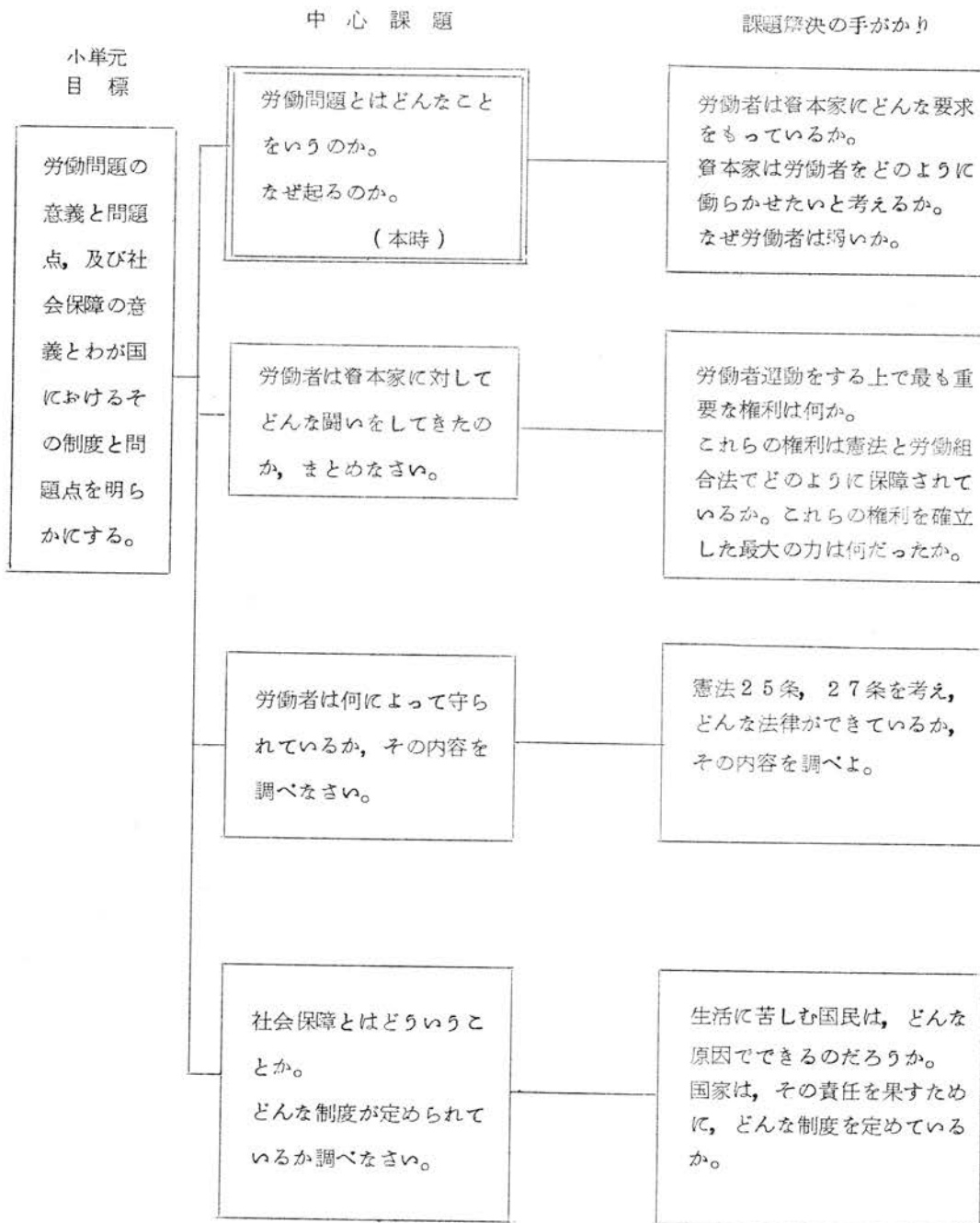
1. 日 時 昭和47年8月2日(水)
2. 学 年 3年C組 男子17名 女子17名 計34名
3. 単 元 構成をつかむ。
4. 目 標
筆者がどんな問題を取りあげ、どのように考えを進めているか、特に文章の組み立てに注意して、説明や主張を読み取る。
5. 指導計画
 - 日本語の特色 6時間(本時3時限目)
 - 同義語・対義語 1時間
 - けんか 5時間
6. 本時の目標
 - 指示語。接続語に注意し、説明と例示を区別しながら日本語の構造上の特色と問題点を正確にとらえる。
 - 比較してものを見る態度を養う。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	<ul style="list-style-type: none"> 筆者はどんな方法で日本語の特色を述べようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習
	<p>指示語、接続語、例示の部分に気をつけながら日本語の構造について書かれている段落を読んでみよう。</p>	
中心	<ul style="list-style-type: none"> 読解上必要な指示語・接続語については、前もって知らせておく。 指名し発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で音読する。 指示語、接続語について考える。
	<p>日本語の構造にはどのような特色がありますか。またその特色に対してどのような問題点がありますか。</p>	
段階	<ul style="list-style-type: none"> 筆者はどのような例を使っているか。 英語と日本語を並べて書いてみよう。 何か違うところはないか。 机間巡視 	<ul style="list-style-type: none"> 例示部分を抜き出し、英語と日本語の相違点と問題点を考える。 <p>個人思考</p> <p>班</p> <p>全体</p>
	<p>この段落の構成は、どうなってますか。</p>	
確認段階	<ul style="list-style-type: none"> 「まず」「次に」「次にまた」の文章の並びに気づかせる。 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの問題に取り組む。

3年 社会科(公民) 課題一覧表

単元 「労働問題と社会保障」



社会科学習指導案

授業者 望月民雄

1. 日時 昭和47年8月2日(水)
2. 学年 3年D組 男子16名, 女子17名 (合計33名)
3. 単元 労働問題と社会保障
4. 目標 労働問題と労働組合の意義と問題点及び社会保障の意義とわが国におけるその制度と問題点を明らかにする。

5. 指導計画

労働問題.....	1	(本時)
労働組合.....	1	
労働者の保護.....	1	
社会保障.....	1	
単元のまとめと評価.....	1	

6. 本時の目標

労働問題とは、何であるかを、労資の利害の対立面から明らかにする。

7. 学習過程

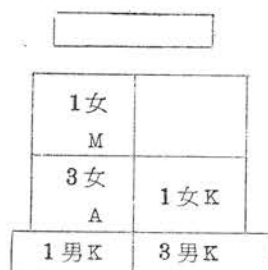
	教師の活動	生徒の活動
準備段階	資本主義の生産の特色について4つ位にまとめなさい。	
		• プリントにまとめる。
中心段階	資本家（使用者）と労働者	
	資本家と労働者との関係を明らかにし、その矛盾点を示しなさい。	
	<ul style="list-style-type: none"> 「資本家は、労働者をどのように働かせたいと考えるのだろう、又それはなぜか。」 「労働者は、資本家にどんな要求をもっているのだろうか。」 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">労働者の要求</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資本家の考え</div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> 対立 </div>
	<ul style="list-style-type: none"> 「労働者と資本家とではどちらが強いか、またそれはなぜか。」 	<ul style="list-style-type: none"> • 個人で考える • 個人で調べる • 班で話し合い • 個人でもう一度考える • 班単位で発表
	労働条件の改善、向上のために最も重要なことは何だろうか。	
確認段階		労働者の団結
	• 発問を加えながら、まとめる。	

研究学級 学習指導案資料

1 生徒の姿

氏名	心身の状態		学習上の問題点	生活上の問題点	家族との同居
	Wisk. I. Q.	身体その他			
1男K	67	・情緒不安定	・数の計算は指を使用 ・ひらがなの約半数を読む	・道具などの後しまつが出来がたい ・集中力が乏しい	・別居 ・父母は出漁 ・学寮生活
1女M	64	・感情的である	・ひらがなが読める ・感情により学習力が左右される。 ・継続力が乏しい。	・買物でのおつり計算難 ・感情に走りやすい	・別居 ・父母は出漁 ・兄と学寮生活
1女S	90	・右足大腿部の筋肉痛 やや短小	・一定の限内で考える傾向	・物事を即断しがちで他人の行動にかいしがち。	・同居 ・父船員で不在 ・3男Kの妹
3男K	60	・言語	・単語を主とした発言で発表に困難 ・文字を伴う習は見通しが困難	・自己主張するようになったが、教師以外の発言に耳をかさない ・就職の見通しが困難	・同居 ・父船員で不在 ・1女Sの兄
3女A	62	・てんかん ・先天性背骨のわい曲	・側にくっついていなければ学習が中断しがち	・清潔さを保つのにやや難 ・粗野な面がある ・就職の見通しが困難	・別居（父亡） ・学寮生活

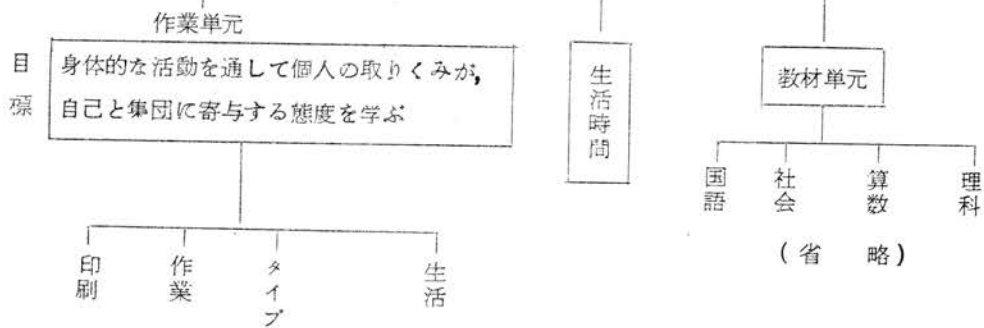
2 座席



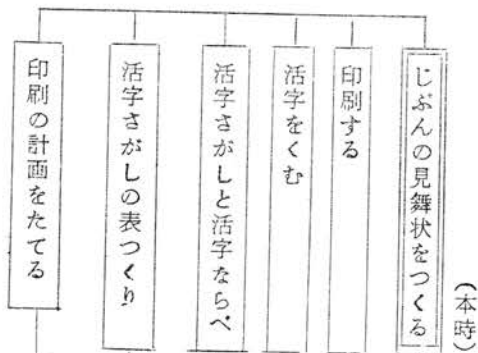
3. 課題一覧表

単元 作業単元 「暑中見舞を印刷する」

中心目標
 1. 自己表現と自己統制をめざす子
 2. 生活力を求める子



課題



発問

みんなで行う仕事をするにはどんな事を考えたらよいか

漢字とかなにわけてみよう

早く活字をくむ方法を考えよう

へんやつくりでさがそり

話しかけた通りにできていますか。

すき間なく、くみ合わせる事ができていますか。

もとの文とよくくらべてみなさい。

じぶんの気持ちをよく表わしていますか。

研究学級 作業単元 印刷学習指導案

授業者 林 義 浩

1. 日 時 昭和47年8月2日(水)

2. 学 年 研究学級(1年男1名 女2名 3年男1名 女1名) 5名

3. 単 元 作業単元「暑中見舞の印刷」

4. 目 標

(中心目標)

①自己表現と自己統制をめざす子

②生活力を求める子

(7月の目標)

①自分の考えていることは積極的に発表する。そして、自分のやっていることが他人のためにもなるよう努力する。

②毎日他人と仲良く生活できるように頑張る。失敗した時は次にどうすればよいか一生懸命考える。

5. 指導計画

- 印刷の計画をたてる……………1時間
- 活字さがしの表づくり……………1時間
- 活字さがしと活字の並べかえ……………3時間
- 活字をくむ……………2時間
- 印刷……………1時間
- 自分のハガキを完成させる……………1時間(本時)
- 反 省……………1時間

6. 本時の目標

暑中見舞をかき、自分の気持ちが足りないものを絵であらわす。

7. 学習過程

	教師の活動	生徒の活動
準備段階	1. 本時のあらましを話し、理解を求める。 2. 材料を確かめさせる。 3. 生徒各自の準備を個々に確認してまわる。	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の活動のあらましを知る。 1男K 材料を確かめることができる。 1女M 材料を確かめ活動のおよそを知る。 1女S みんなに説明できる。 3男K 何をすればよいか、もう一度教えてもらう。 3女A 質問ができる。
中心段階	4. 課題を提示し、その意図を説明する。 5. ハガキを出す相手をきめさせる。 6. どんな絵をかいたらよいか自分で考え下絵を別紙にかかせる — できれば発表させる。 7. 下絵を点検する。 8. ハガキにかかせる。	<ul style="list-style-type: none"> • どうして絵をかくか、その意味を考える。 ハガキに絵を書き先生や友人に自分の見舞の気持ちを表わす。 1男K モデルをさがしてかける。 1女M 着想した絵をかき上げる。 1女S 自分の思いを表わす。 3男K 絵の形にあらわせる。 3女A 自分の空想を紙にかく。
確認段階	9. 表書きを指導する <ul style="list-style-type: none"> • 正確さ • 誤字のないこと • ていねいに 	<ul style="list-style-type: none"> 1男K 教えてもらいながら、所書きをかく。 1女M ていねいにかける。 1女S 自分で書く。 3男K 教えてもらってかく。 3女A ていねいにかける。

11. 必修クラブ指導案

バレーボール(男子)クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	清田 滋
部長名	道法一行	部員数	男子 20名 女子 名 合計 20名
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーを中心に、グループ内で互いに協力しあい、チームワークを育て、自治的活動を通して自主性を養う。 ○健康と安全に留意しながら、レシーブの基礎技能を習得する。 		

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
5分	1 集合、あいさつ	○整列と号令(部長)	○欠席者、見学者の確認(理由の確認)
5分	2 出席の確認	○出席簿への記入(副部長)	
5分	3 準備運動(班毎)	○班長が号令、指示	○全身の運動に加えて、特に手首足首及び指をよくほぐしておく
5分	4 パス(二人一組) ○オーバーストップパス ○アンダーハンドパス		○パスの基本姿勢 手や腕だけのパスにならないように全身のバネを利用 ○相手のわるい所を指摘し合う。
5分	5 本時の目標、活動内容の確認 ○パス(どんなことに注意すればよいか)	○班員へ目標、活動内容を徹底させる。(班長) ○パスの司会	○個人差を考慮に入れて、自分なりの技能到達目標をもつ。
20分	6 練習(班毎) ○対人レシーブ ・二人一組 ・三人一組 ○シードレシーブ 五人一組 ○話し合い(班毎に)	○両手で、体の正面でレシーブしているかどうか ○司会(班長) ○一人一人が気楽に発言できるようにする	○課外でのバレーボールクラブの生徒を通して、技術面のアドバイス ○各自の技能に似合った程度のレシーブになるように互いに協力し合う ○積極的な話し合いの参加 ○相手の悪い所ばかりでなく良い所も指摘するように。 ○一人が必ず何か一言は発言すること。
10分	7 集 合 ○全体での反省(班ノート記入) ○次時の予定	○司 会(部 長)	○楽しく活動できたか ○自分なりに満足できる活動であったか。
	8 あいさつ	○号 令(部 長)	○技術面、態度面での全体的な注意、気付き
	9 後 始 末		○当番になっている班で責任をもってかたづける。

バレーボール(女子)クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	道 法 幸 恵			
部長名	西 明 恵美子	部員数	男子	0名	合計	22名
			女子	22名		
活動目標	◦みんなが楽しくできるようなレシーブの仕方での練習する。 ◦みんなが協力する。					

時刻	活 動 内 容	リーダーの活動	活 動 上 の 留 意 点
2	サーブ		
13	集 合, あいさつ 出席の確認 準備運動	号令をかける 出・欠を調べる	欠席者, 見学者があれば理由を確かめる。 リーダーを中心に, 自主的, 協力的に行なわせる。
5	バス(対人)		ボールに慣れさせる。
25	本時の説明 レシーブ練習 グループ毎に練習をする	班長が本時の活動内容を説明する。 班長が中心になる。	皆んなといっしょに活動しようとしているか。
5	集 合 反 省 会	司会をまとめてみる。 クラブ日誌に記入する。	気楽に発言できるような雰囲気をつくってやる。

庭 球（男子） クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日(木)	顧問教師名	松 尾 誠
部長名	関治谷 恭 司	部員数	男子 17名
活動目標	(態度) 部長の指示によって節度のある中学生らしい練習をする。 (技能) フラットサービスの要領をつかむ。		

時間	活 動 内 容	リ ー ダ ー の 活 動	活 動 上 の 留 意 点
15	準 備	<ul style="list-style-type: none"> ○部長 各係に指示 (ボール係, ネット係, ライン係, 出欠係) 	<ul style="list-style-type: none"> ○服装をきちんと整えて, 運動場へ出る。
2	集 合	<ul style="list-style-type: none"> ○部長の号令により二列縦隊 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師は列の後へつく。
3	ランニング	<ul style="list-style-type: none"> ○「出発」の号令でスタートさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動場を3周する。
3	準備体操	<ul style="list-style-type: none"> ○号令を全員でかけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに輪にならせる
5	素 振 り	<ul style="list-style-type: none"> ○フォームの悪い者を指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ○各自 100回 形式的, 惰性的にならぬこと
24	本時の課題 「フラットサービス」	<ul style="list-style-type: none"> ○フラットサービスの意味, やり方について, バズさせる。 ○各段階における正しい姿勢と技法を指導する。 ○二人組の隊形を指示 ○共通の問題点(まちがい)があったらバズさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各段階の内容を考えながら, スイングの練習をする。 ○トスがまっすぐ上がるように何回もくり返して練習する。 ○二人組をつくり, ストレートでフラットサービスの練習をする。 ○両方のサービスコートに入るように, 2球ずつ交互に練習する。
5	反省会	<ul style="list-style-type: none"> ○班長が司会をし, きょうの練習の反省をさせる。 ○反省日誌の記入 	<ul style="list-style-type: none"> ○反省の観点は, 技能面ばかりでなく態度面も忘れぬように
3	ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ○部長の指示により三列横隊 	<ul style="list-style-type: none"> ○きょうの気づきを教師がのべ班の疑問点に答える。

庭 球（女子）ク ラ ブ 活 動 計 画

活動年月日	昭和 4 7 年 8 月 8 日	顧問教師	底 押 正 司		
部長名	北 田 登 利 美	部 員 数	男子 女子	名 17名	合計 17名
活動目標	。テニスの基礎であるグランドストロークを身につけることにより、興味を倍加する。				

時刻	活 動 内 容	リ ー ダ ー の 活 動	活 動 上 の 留 意 点
10分	集 合 ラ ニ ン グ 準 備 体 操	号 令 出欠を取る 本時の目標、活動内容の説明 部長の号令により、二列縦隊 各班の班長が指揮	用具の点検をする。 見学者の理由を確かめる。
5分	素 振 り	悪いフォームがあれば指摘	形式的にならないようにする。
25分	グランド・ストローク (バック主体)	班長は、フォームの基本を説明する。 腰を下げているか ラケット面とボールは直角か スタンスは良いか。 班長は問題が出ると、バズをして、問題解決する。 コートを使っていない班は、班長の指示で素振り、バズ等の活動をする。	一年生を中心にして活動する 基本に忠実であるか。 リーダーは活動しているか。
10分	整 理 体 操 反 省 会 集 合	各班で独自の体操をする。 班長は司会をして、まとめる 反省ノートの記入 ボールの紛失はないか、確認する。 号 令	時間がくれば、途中でもすぐに終る。 バズは行なわれているか。 積極的に参加しているか。 みんな楽しく活動したか。 問題点をまとめ、次の活動の参考にする。

卓球（男子）クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	箕月秀晃		
部長名	北森正敏	部員数	男子	30名	合計 30名
			女子	0名	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 集団の規律を守り、楽しく活動することを通してよりよい人間関係を育てる。 ◦ フォア打ちのようりようをつかむ。 				

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
5分	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 用具の準備 ◦ 集合、あいさつ ◦ 出席の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 部長の号令・目もく・あいさつ・準備運動 ◦ 出席を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 姿勢を正して、目もくするようになる。 ◦ 欠席者、見学者の理由を確かめる。
30分	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 全体目標の確認 ◦ 準備運動（素振り、フットワーク） ◦ 活動内容の確認 ・各班で話し合う（ショットバズ） ◦ 班ごとに別れて活動する ・三つの班、サーブ、フォア打ちの練習 ・三つの班・柔軟運動 ◦ 班ごとの話し合い（ショットバズ） ◦ 班ごとに別れて活動する。 ・活動を入れかわる 	<p>部長指示 班長の指示、班ごとの準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 班長、活動内容・目標を指示する。 ◦ 部長指示 (1～3班は台で練習、4～5班はそれぞれ柔軟運動をして下さい) ◦ 班長、活動を簡単に反省、今後の活動の打ち合わせを指示する。 ◦ 部長指示 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 元気に活動するよう指示する ◦ 活動の目標を持たせる。 ◦ 楽しく活動させる。 ◦ 問題点を素直に出させる。
5分	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 後始末 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 部長 用具の整理を指示する 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 責任を持って作業にあたるようになる。
10分	<p>反省会（ロングバズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班ごとに本時の反省（班ノートに記入） <ul style="list-style-type: none"> ◦ 全体で反省 ◦ 次時の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 部長指示 (各班円をつくり反省させる) ◦ 班長 問題点等を発表する。 ◦ 部長 次時の予定を伝達する 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 進歩の状態、問題点を自由な気持ちで話し合わせる。 ◦ 次時の予定を全員が確認するようになる。

卓球（女子）クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	鎗野健次郎			
部長名	西中美順	部員数	男子	0名	合計	26名
			女子	26名		
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく活動し、よりよい人間関係の育成と集団の向上をはかる。 ・フォア打ちの要領をつかもう。 					

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・集合・あいさつ (班ごとに整列) ・出席の確認 ・用具の点検 ・班ごとに別れて準備運動 素振り 	<ul style="list-style-type: none"> ・部長が指示・号令する。 (冥目・気をつけ・礼) ・部長が出欠席を調べる。 ・部長が指示する。 ・部長が号令する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敏速に行動しているか ・欠席者・見学者がいれば理由を確かめる。 ・元気に活動しているか。
30分	<ul style="list-style-type: none"> (班ごとに整列) ・全体で本時の活動内容を確認する。 ・班ごとに別れて活動内容を検討し、班・個人の目標をたてる。(バズ) ・班ごとに別れて活動する。 (3つの班がサーブ・フォア打ちの練習) 2つの班が柔軟運動 ・班ごとで、今までの活動を反省するとともに、次の活動への打ち合わせをする。 (バズ) ・班ごとに別れて活動する。 ※班活動を交替する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部長が号令する。 ・部長が指示・伝達する。 ・班長が司会する。 ・班長が指示・号令する。 ・部長が指示する。 ・班長が指示し、また司会する。 ・班長が指示・号令する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて補足説明する。 ・集団として個人としての活動の目あてを持たせる。 ・全員が楽しく活動に参加しているか。 ・上級生の下級生指導に目を向ける。 ・不安・悩みなど問題点を自由に話し合わせる。 ・一人一人の進歩の状態が話し合えるようにする。 ・全員が楽しく活動に参加しているか。 ・リーダーの資質が充実しているか。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・後始末 ・班ごとに別れて整理運動 ・反省会 班ごとに反省会 (班ノートに記入) ・全体反省会 ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・部長・班長が指示する。 ・班長が指示・号令する。 ・班長が司会する。 ・部長が司会する。 ・部長が伝達する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・責任もって、各班で作業にあたるようにする。 ・敏速に行動しているか。 ・各人の活動に対する課題を解決しているか。 ・仲間意識がつけられているか

剣道クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	田中俊治		
部長名	八重垣協次	部員数	男子	22名	合計 23名
			女子	1名	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・連続して打つことができるようになる。 ・2人組の話し合いにより出来ないところ悪いところを協力して解決する 				

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
5	<ul style="list-style-type: none"> ・集合あいさつ ・出席の確認 ・活動について確認 ・基本練習 (1) 素振 (2) 面小手胴 	<ul style="list-style-type: none"> ・部長は集合の合図をかける。(正座・めいもく・あいさつ) ・部長が出席を調べる。 ・部長の指示で竹刃を点検する ・今日のはかりげいこを行なうことを連絡する。 ・素振を指示する。(全員でかけ声をかけながら行なう。) ・防具をつけて各班で面小手胴, 打ちを1人5回つつ行ないローテーションするよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正座の姿勢・防具のつけ方を正しく行なう。 ・大きな声で「はい」といえるように気をつける。 ・安全性を確かめる。 ・全員でかけ声をかけながら正確に打つ。 ・一足一刃の間合から打ちこむ。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・はかりげいこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・集台の合図をかけ実技を入れて説明する。 各班長を中心に ・各班でローテーションしながら練習をする。(1人3分間バズを取り入れながら行なう) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり行なりようにさせる。 ・2人組の話し合いを大切に
15	<ul style="list-style-type: none"> ・素振 ・反省(班) ・後始末 ・反省(全体) ・次回の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習終りを指示する。 ・部長の合図ではじめる。 ・班長が反省会の司会をして今日の反省会 ・班長は防具をかたづけるよう指示する。 ・部長の司会で各班の発表をさせ、まとめる。 ・班長が連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面のはずし方またはおき方を正しく行なう。 ・具体的な反省となるように ・防具のかたづけは各班で責任を持って行なう。 ・発表は大きい声でするようにしたい。

ソフトボールクラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	井原多澄			
部長名	高橋真由子	部員数	男子	名	合計	24名
			女子	24名		
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◦グループ活動により、基本練習のまとめを行なう。 ◦一学期の反省を行ない、二学期からの活動に役立てる。 					

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
10分	準備		◦4班(当番)
5分	集合	<ul style="list-style-type: none"> ◦号令 ◦出欠調べ ◦本時の活動の確認と指示 	
25分	基本練習 ・トスバッティング ・ノック	◦班長を中心に練習	<ul style="list-style-type: none"> ◦班ごとの練習計画に基づき行なう。 ◦行動はかけ足で敏速に行なう
15分	一学期の反省 (1) 班ごとの反省 (2) 全体反省	<ul style="list-style-type: none"> ◦班長が司会 ◦部長が司会 	◦良かった事を中心に、二学期の抱負などを話し合う。
5分	本時の反省 班日誌記入 集合	◦号令	
10分	後始末		

体 操 ク ラ ブ 活 動 計 画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	土 井 慶 嗣			
部長名	北 倉 光 行	部 員 数	男子	20名	合計	20名
			女子	0名		
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「後転跳び」の理論を学び、自主的に練習する。 ○クラブ員の「協力」により、秩序ある活動を行なう。 					

時刻	活 動 内 容	リ ー ダ ー の 活 動	活 動 上 の 留 意 点
1(分) 4	1 集合、あいさつ	クラブ員を集合させ、号令をかける	元気よくあいさつする。
	2 出席の確認	点呼をとる	欠席者・見学者の理由を確かめる。
2	3 本時の活動内容の確認	活動内容を発表する。	本時の活動の目安を持っているか
	4 準備運動 柔軟運動	班長が指示する	班ごとに協力してやる。
7	5 集 合	次種目の指示	順序よくやる
	前転→後転→ 開脚前転・後転→ 伸膝前転・後転→ 倒立前転→後転倒立	不完全な所の指示と矯正 班長は種目により補助する。	前の者が二度やってから、次の者が行なう。 他のクラブの活動に気をとられない。 教師も生徒と一緒に活動する。
15	6 集 合	活動目標を発表し、活動の手順を指示する。	「後転跳び」の方法、留意点を明確にする。
	練習 ↓ 話し合い ↓ 練習	班長は疑問点について、話し合い活動のリーダーシップをとる。	できるだけ安全な方法で練習する (バズ) 練習方法に創意・工夫をさせる
5	7 自 由 練 習	率先して、秩序ある練習をする	むやみに実力以上の運動をやらないうようにする。 全員が楽しくできるよう配慮する
10	8 集 合	班長は司会をする	(バズ)
	グループ別反省 全体の反省 次時の予定 あいさつ	司会をし、反省のまとめをする。	気軽に全員が言える雰囲気をつくる。 他の班の反省に耳を傾け、クラブ員としての連帯意識をもつ。

美術 クラブ 活動 計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	吉 川 和 治		
部長名	炭 木 明 子	部 員 数	男子	29名	合計 34名
			女子	5名	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 班活動を全員が協力して行なう ◦ 今日で作品が完成するよう頑張る 				

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
1分	◦ 集合 挨拶	部長は前に出る 班長はめい目の徹底をさせる。 副部長は号令をかける。	静かな気持ちで活動にとりかかれるようにする。
2分	今日の活動について各班より発表	司会(部長) 班員に活動内容を確認させる (班長)	はっきりとした活動内容を発表させる。
35分	◦ 班 活 動 シークレット班 紙工作 秋 班 デザイン ボン 班 水彩画 木 枯 し 班 木彫(トームボール) キク 班 紙工作	全員が活動に参加するよう気を付ける。 仕事にまとまりがあるようにする 低学年の班員に指導する。 なまけないように指導, 班長自ら積極的になる。 班員の活動を確認し, 雑な活動にならないようにする。 班でバラバラの活動にならないよう注意	技術的な面で問題のある点を班別指導 仕事に全員が参加しているように。 作品を完成させること。 はっきりとした目標を持って活動する。 製作に見通しをたてて活動する。 作品を完成する気持ちで活動する。
5分	反省, 班ノートに記入 来週の活動を決定, 班目標は達成できたか。	反省の司会(班長) 全員がバズに参加するようにさせる。	いいかげんな書き方にならないように指導。 来週の活動, 準備物ははっきりさせる。
2分	◦ 反省を発表する。	部長の司会, 班長が発表する。	はっきりとした声で発表する。 具体的に反省を述べる。
4分	◦ 後片付け	当番を決めて活動させる。	早く片付ける。
1分	◦ 終りの挨拶	めい目, きをつけ, 札の指示 めい目を徹底させる(班長)	

新聞クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	榎 勝 博			
部長名	益 田 久美子	部員数	男子	5名	合計	18名
			女子	13名		
活動目標	○校内新聞第2号作製の時、みんな協力できたか反省し、人間関係の向上をはかる。 ○校内新聞第2号を批評し、創意工夫の大切さを知る。					

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
15	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞作製の時みんな協力できたか反省する。 ○校内新聞第2号を批評する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○号令「めいもく、気をつけ、礼」 ○出席をとる。 ○本時の活動内容の説明 ◎ 校内新聞2号作製の時の反省 <ul style="list-style-type: none"> ○自分の任務にまじめにとりくんだか。 ○他の人を援助したか。 ○他の人に援助してもらったか。 ○グループ内の協力はよくできたか。 個人で考える ↓ グループでバズ ↓ 全体へ発表 ↓ 全体的話し合い ↓ 今後どのようにすればよいか ◎ 校内新聞第2号の批評第1号とくらべて <ul style="list-style-type: none"> ○創意工夫したところは ○どういう点に苦勞したか ○新聞全体の感想 個人で考える 今後どのようにすればよいか 	<ul style="list-style-type: none"> ○反省、批評会であるから、みんな冷静にかつ厳格なものにする。 ○プリントを用意する。 メモしながら反省する。
30		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 校内新聞第2号の批評第1号とくらべて <ul style="list-style-type: none"> ○創意工夫したところは ○どういう点に苦勞したか ○新聞全体の感想 個人で考える 今後どのようにすればよいか 	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントを用意する。 メモしながら批評する。
5		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 今日の活動のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ○反省ノートの記入を指示する。 ○発表してもらおう。 ○号令「めいもく、気をつけ、礼」 	

E・S・S(英会話)活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日(木)	顧問	荒田 亮 達		
部長名	小林 洋文 賀能山 ちずか	部員数	男子	2名	合計 28名
			女子	26名	
本時の目標	1 道で外人に出会った時、どのように話すかを学ぶ 2 英語の歌が歌えるようになる。				

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
1:55	あいさつ	「気をつけ、礼 / 」 「ただ今から、E・S・Sの活動を始めます。」 「テキストの読み方を先生に教えていただきます先生、おねがいします。」	出欠の確認
2:00	教師の読み方(アクセント・イントネーション等)の指導	
	一斉練習	「先生、ありがとうございました。」	
2:10	個人練習	「今度は、自分で練習して下さい。」	全員真剣に練習にうちこんでいるか。
2:20	相互練習	「今度は、二人一組で練習して下さい。」	人間関係はうまくいっているか。
2:30	練習終了 テストと録音	「では、練習を終わって下さい。」 「今から何人かの人に、実際にやってもらいます」 「なお、その様子を録音しますので、はっきり発音して下さい。」 「では、□さんと□さん、おねがいします。」	不安や悩みをかかえている部員はいないか。 リーダーは充分その責任を果しているか。
2:35	再生と批評	「録音したものを再生してみますので、どこがよかったか、あるいは、どこが悪かったかを各班で話し合ってもらいます。」 「それでは、各班で批評をまとめて発表して下さい。」	活動の雰囲気は楽しいものだろうか。
	練習	「では、今の批評をもとに、もう一匹二人ずつで練習して下さい。」	
	英語の歌	「では、これで会話練習を終わって、英語の歌を歌ってもらいます。歌は～です。」	
2:40	反省会	「ただ今から、この時間の反省を行います。なお同時に、このクラブの活動についての要望や意見があったら、発表して下さい。」	活動の仕方に、改善すべき点はないか。
	しりとり遊び	「もう少し時間がありますので、英語のしりとり遊びをやってみたいと思います。先ず、～さん最初のことばを言って下さい。」 「それでは、これで今日のE・S・Sの活動を終わります。次の時間までに、会話をよく練習して来て下さい。」	
2:45	終りのあいさつ	「気をつけ、礼 / 」	

書道クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	大成 治			
部長名	北 東 良 雄	部員数	男子	1名	合計	22名
			女子	21名		
活動目標	文字がどのように配列されたら、全体がよく整えられ、読みやすくなるかを理解する。 (調和のとれた文字の書き方、配列のし方を理解する。)					

時 刻	活 動 内 容	リーダーの活動	活動上の留意点
0～5分	互 礼 本時の活動目標の確認	部長は号令をかけ、出席をとる。 又本時の活動目標を部員に伝達する。	
5～10分	基 礎 練 習 (運腕と運筆)		隣同志交替で相手の運腕、運筆を見守り注意しあう。 (姿勢・筆のおろし方・墨のふくませ方についても注意する。)
10～20分	第一次練習	課題の提示	個人批評を必ずおこなう。
20～30分	班内での話し合い ↓ 相互批判 ↓ 全体での話し合い	班長は、班員全員から意見をきき、まとめ、全体の場合出す 部長は各班からの意見をまとめる	基礎が十分できていないので意見があまり出ないことが予想されるので、教師がいろいろの作品を準備、それを比較検討させる。 字くばり(余白・字間・行間・字の大きさ) 調和(中心をそろえる、墨色・大小)
30～45分	第二次練習 後 始 末		用筆にあまりとらわれず、目標達成へ重点をおく。 できれば応用練習もする。 筆のおさめ方に注意

家庭科クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	藤田員代		
部長名	北倉百合香	部員数	男子	0名	合計 29名
			女子	29名	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ◦班内で協力し合い、楽しいふんいきで活動できる。 ◦安全に注意して製作する。 				

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
10分	① 集合・あいさつ ② 出欠席の確認 ③ 本時の活動目標及び内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ◦部長が「めい目・礼」をかける。 ◦部長が班長に出欠席の確認を行なう。 ◦班長が中心になり、班員に学習内容の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦欠席生徒の理由を確認する。 ◦各自に本時の活動目標と内容は握らせる。
30分	④ 実習 ◦図案の下書きをもとにししゅうをする。	<ul style="list-style-type: none"> ◦班長が中心になり、目標に到達するよう班員をもちたてる。 ◦つまづきが生じた時、班全員に投げかけて解決をする。 ◦製作中の楽しいふんいき作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦フランスししゅうの完成作品や、さし方図を参考にさせる。 ◦作品の製作に、根気よくはげませせる。 ◦机間巡視しながら、グループからはずれた生徒はいないか注意する。
10分	⑤ 後かたづけ ⑥ 反省 ◦班別反省 ◦次時の予告 ⑦ あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ◦班員が遠慮なく、意見の出しあえるふんいきにする。 ◦部長が「めい目、礼」をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦針・糸くずの残り等、全員が協力してかたづけさせる。

科学クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	寺 田 勝 彦			
部長名	北 井 義 孝	部員数	男子	19名	合計	28名
			女子	4名		
活動目標	班毎による研究の中で、分担役割を決め、話し合い、協力し合って実験、観察を行なう。					

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
5	○集合・あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ○号令をかける。 ○ではクラブを始めます。 ○めいもく、気をつけ、礼 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具・器具が完全にそろっているか ○破損はないかを点検する。
5	活動内容の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ○では今日の班毎の活動内容を言ってもらいます。 ○班内で少し話し合ってください ○では今日の活動内容を言ってください。 ○班長 活動内容を簡単に説明 	班員がすべて話し合いに参加しているかを注意する。 実験・観察班 班員 ① 花 粉 4 人 ② 動物の生態 3 人 ③ 溶液と結晶 4 人 ④ 物質の分離 5 人 ⑤ 気象・海洋観測 2 人 ⑥ 風を動力に使った実験 5 人
3.0	実験・観察開始 (各班毎の研究テーマに従って)	<ul style="list-style-type: none"> ○部長：では各班に分れて、実験観察を開始してください。 班長：では始めます。 <li style="padding-left: 20px;">前時の続きです。 (全員が活動出来るように配慮) 分 担 役 割 	班 別 指 導 基本的な実験の操作、まちがいや、器具の取り扱いの説明する。内容にはあまり深くたちらないようにする。質問には答えるが、出来るだけ、班員の話し合いで解決する。
1.0	反 省 各班で反省 班ノートの記入 全体で反省	<ul style="list-style-type: none"> ○部長：では時間がきたので、今日の活動をやめてください。後片付けを行ない、今日の反省と次の時間の計画を話し合ってください。 ・やめてください。 ・発表してください。 ・班長が発表 ○部長：ではこれで終わります。道具・器具は準備室に入れて下さい ゴミをひろってください。 めいもく 気を付け 礼 	<ul style="list-style-type: none"> ・見落とし事項は指摘する。 ・机間巡視をし、実験・観察の進行状態を調べ、つまづきを解消する。 机間巡視をし、記録のとり方、反省、次時の発展などの点検を行なう。

社 会 ク ラ ブ 活 動 計 画

活動年月日	昭和47年8月8日	顧問教師	林 義 浩		
部長名	高 木 正 美	部 員 数	男子	11名	合 計 11名
			女子	名	
活動目標	① 富士山の等高線(平面)を立体化する。 ② 技術上の意見交換を基に、仕事を完成する過程での協力を学ぶ				

時刻	活 動 内 容	リ ー ダ ー の 活 動	活 動 上 の 留 意 点
7分	1 集合・あいさつ 2 出欠・用具の確認 3 本時の活動内容を確認	1 明るい気分の号令 2 出欠をとる。用具の有無・点検の司会 3 活動内容の司会	1 気持ちのよいあいさつ 明るい雰囲気保持 2 教師が活動目標を提示する 3 本時の個人課題をは握させる。
33分	4 製作の開始 ① 複 写 ② 切り抜き ③ 相互の意見交換	4 材料・用具の世話 5 意見交換の調和をはかる 6 教師との連絡	4 全員が参加できるよう、教師は全体の世話をする。 (用具・材料の充足をリーダーと共に配慮) 5 相互の意見交換は、製作上の困難点を解決する方法に重点をおく。
10分	5 反省会 ① 班反省 ② 全体反省 6 後かたづけ	7 反省会の司会 8 後かたづけの中心となる。	6 一人一言の発表 7 教師の評価

音 楽 ク ラ ブ 活 動 計 画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	大背戸 澄 子		
部長名	西 中 艶 子	部員数	男子 3名	女子 22名	合計 25名
活動目標	協力し楽しく「希望のささやき」の2部合唱の練習をする。				

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
5分	めいもく・礼 出席の確認	出席の確認	ピアノ曲の演奏
10分	発声練習 アーアエイオウ 歌集より2曲	指揮をする。	発音正しく 呼吸の仕方が正しいか。
20分	本時の目標 グループ別 ・高音 ・低音 高音・低音の交 互唱 2部合唱	この時間はパート練習に重点 をおきます。 リズム練習 階名唱 歌詞唱 歌い始めの指揮をとる。	真剣に個々が練習しているか。 息つきについて注意する。 明確な発音 歌詞の内容をつかませる。 記号を理解し歌わせる。
10分	グループ別反省 全体反省 次時の計画を立てる。 めいもく・礼	今日の活動の反省 発表する。 班の意見をまとめる。	話しやすいふんいきをつくる。 楽しく活動出来たか。 ピアノ曲の演奏

読書文芸クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	橋 浜 正 人		
部長名	道 法 涼 子	部 員 数	男子	5名	合計 15名
			女子	10名	
活動目標	文集作製の反省をすることによって手順を知る。				

時刻	活 動 内 容	リ ー ダ ー の 活 動	活 動 上 の 留 意 点
5分	<ul style="list-style-type: none"> • あいさつ • 出欠席の確認 	<ul style="list-style-type: none"> • 号令をかける <ul style="list-style-type: none"> ・これから読書文芸を始めます。 ・めいもく・気をつけ・礼 • 出席をとります。 	
33分	<ul style="list-style-type: none"> • 文集を作るためどんなことをしたか思い出す。 • 本時の活動内容を確認する。 • 文集作製過程に従って良かった点足りなかった点を班ごとに反省する。 • 班で話し合ったことを発表する。 • 皆で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 私たちは文集を作るのにどんなことをしてきましたか。 • プリントを配布する。 • 今日は文集作製の反省をおこないます。 • 計画→原稿修正→ガリ→印刷→製本という順序でやってきたのですが、それぞれの過程で気づいたことはありませんか。 • 班で話し合ってみて下さい。 • やめて下さい • それでは発表して下さい。 • 足りなかった点はどのようにすればよかったのだろうか。 • 次に文集を作る時にはこれらの点に気をつけてよりよい文集を作るようにしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 司会者への助言をする。 • 文集作製の活動内容を印刷しておく。 • 机間巡視を行なう。 • 班員が協力して話し合いに参加しているかどうか。 • 話し合いが活発におこなわれていなかったら既成の文集を配布し、比較させる。 • 気づかない点があれば指摘する。
5分	<ul style="list-style-type: none"> • 反 省 • あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> • 各班ごとに反省して下さい。 • 号令をかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・これでクラブを終わります。 ・めいもく・気をつけ・礼 	<ul style="list-style-type: none"> • 机間巡視 <ul style="list-style-type: none"> ・全員まじめに反省しているかどうか。

昆虫クラブ活動計画

活動年月日	昭和47年8月3日	顧問教師	皇月民雄
部長名	北岡 至	部員数	男子 7名 合計 7名
活動目標	標本作りを通して昆虫に対する興味をおこし、協力の態度を養う。		

時刻	活動内容	リーダーの活動	活動上の留意点
3	集 合 うちあわせ	号 令 諸 注 意 伝 達	ルールを守って、きびきびとした態度で
33	標 本 作 り ・形づくり ・ラベル作り ・昆虫の分類	班内への一員として活動し、全体に気を配る。	・全員が協力して 楽しく活動しているか。 ・昆虫の分類はうまくいっているか。
10	後 か た づ け 集 合 反 省 会 1学期の反省	号 令 反省会の司会	建設的な意見が出ているか。

12. 必修クラブ年間活動計画

バレーボール (男子) クラブ年間活動計画		
		指導者 清田 滋
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが協力しあい、チームワークをよくする。 ・練習をまじめにする。 ・バレーボールの基本動作を身につける。 	
項目 月	主な活動の内容	指導目標
4	・部会(自己紹介, 説明)	・部員相互の確認をはかり、今後の目標について考えさせる。
5	・年間活動計画作成 ・パス(上手パス・下手パス)	・活動計画作成を通して、生徒の自主性・協調性を養う。
6	・パス(上手パス・下手パス) ・理論	・バレーボールの基本であるパスの技能を身につけさせる。
7	・パス ・レシーブ	・基本姿勢・フットワークを中心に基本動作を習得させる。
8		
9	・レシーブ ・サーブ	<ul style="list-style-type: none"> ・レシーブの動きと姿勢をしっかりとさせる。 ・サーブの正しいフォームを身につけさせ、確実性のあるサーブが打てるようにさせる。
10	・トス ・アタック	・トスの上げ方とキル(アタック)のタイミングをつかませる。
11	・アタック ・ストップ	・アタック・ストップのとび方、タイミングを習得しその基礎になるジャンプ力をつけさせる。
12	・ゲーム ・体力向上のためのランニング、フットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通してチームワークを養う。 ・体力の向上をはかる。
1	・ランニング・柔軟体操 ・ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力の強化 ・ゲームを通して審判のしかたを覚えさせる。
2	・理論 ・反省	・1年間の経験を通じて、バレーの理論を考え、自己の心身両面における成長を反省させる。
3	・ゲーム ・3年生送行試合	・ゲームを通して、部員相互の友好的な人間関係を育てる。

バレーボール
（女子） クラブ年間活動計画

指導者 道法幸恵

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが協力して楽しくやる。 ・楽しい試合ができるようになる。 	
項目 月	主な活動内容	指導目標
4	自己紹介 グループ作り 年間活動計画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・部長・班長を決める。 ・年間活動目標を決める。
5	オーバーハンドパス パス{ アンダーハンドパス	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールのあらゆる技術の根本となるので、正しいパスの方法を身につける。 ・飛来したボールにすばやく身体を近づけ正対し、意図した場所にパスができるようになる。
6	サーブ ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブエリアの確認 ・身体の重心移動とスイングを一致させる。
7	レシーブ 一学期の反省	<ul style="list-style-type: none"> ・相手やボールに正対し、いつでも自由に動ける基本姿勢をおぼえる。 ・互いにカバーし合うことも忘れないようにする。
8		
9	レシーブ(サーブレシーブ) ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・飛来したボールを上手や下手でレシーブし、相手コートに返せるようになる。
10	トス アタック	<ul style="list-style-type: none"> ・トスは味方チームの攻撃の誘導をすることを知る。 ・身体全体のバランスで攻撃することを知る。 ・ジャンプのタイミングをおぼえる。
11	三段攻撃	<ul style="list-style-type: none"> ・パス→トス→キルの連継のプレイができるようにする。
12	ゲーム 二学期の反省	<ul style="list-style-type: none"> ・三段攻撃が活用できるゲームにする。
1	二学期の反省に基づいて練習する 冬期体力づくり(基礎体力の強化)	<ul style="list-style-type: none"> ・各班でできなかった事について練習計画をたてさせ自主的活動の高まるようにする。 ・1時間の前半を基礎体力を強化する為のトレーニングを行ない、後半にゲーム等をやる。
2	ルールの研究 ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを覚え審判ができるようになる。
3	一年間の反省	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できたか。 ・活動内容、活動中の態度等について。

庭球（男子）クラブ年間活動計画

指導者 松尾 誠

項目	主な活動の内容	指導目標
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 動作にけじめをつけ、皆が平等に練習しよう。 わからないことはバズのとき聞き、一步一步上達するように努力しよう。 皆が協力し合って自主的に運営できるようになるよう。 	
4	<ol style="list-style-type: none"> ボールつき ネット打ち 	<ul style="list-style-type: none"> 班編成をし、班長を決定する。 1年間の活動の目標を立てさせる。 素振りの練習をしっかりとやろう。
5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 打法の基本 2. 返球の基本 3. サービスの基本 4. レシーブの基本 	<ul style="list-style-type: none"> クラブの準備が係活動としてきちんとできるようになる。 自分のフォームを確立させる。
6	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本試合 2. ボレー 3. スマッシュ 4. 正規試合 	<ul style="list-style-type: none"> クラブの進め方のパターンが身につく、部長中心に自主運営できる。 試合を通してテニスの楽しさを味わわせる。
7	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォアハンドドライブ 2. バックハンドドライブ 3. ロブ 	<ul style="list-style-type: none"> バズでいろいろな疑問点が出せる。 皆で協力してできる楽しさを味わえるようになる。 1学期の反省をきちんとやらせる。
9	<ol style="list-style-type: none"> 1. フラットサービス 2. スライスサービス 3. カットサービス 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の目標を立てさせる。 チームを編成させる。 ラケットの真中にボールを当ててサーブを入れさせる。
10	<ol style="list-style-type: none"> 1. レシーブ 2. フォアハンドボレー 3. バックハンドボレー 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の評価をきちんとやる中で、次時の各自の目標をつかませる。 レシーブの方法、ボレーの要領をつかませる。
11	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォアハンドスマッシュ 2. バックハンドスマッシュ 3. ミドルポジションプレイ 4. 試合 	<ul style="list-style-type: none"> 試合を通して試合上のマナーが定着する。 後衛も前衛もその打法をマスターし、対処法を知るようにさせる。
12	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冬季練習 2. 軟式テニス競技の方法（復習） 3. 競技のルール 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の反省をさせる。 冬季練習の計画を立てさせる。 ルールと競技方法を復習させる。
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冬季練習 2. 審判上の注意（復習） 	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の目標を立てさせる。 冬季練習の目標をつかませる。 審判上の注意を復習させる。
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冬季練習 2. 軟式テニス競技の記録法 	<ul style="list-style-type: none"> ジャッジペーパーのつけ方を習得させる。 反省資料のつくり方をつかませる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の反省 	反省の観点 <ul style="list-style-type: none"> ・目標について ・約束について ・係活動について ・練習全般について

庭球（女子）クラブ年間活動計画

指導者 底部 正 司

目 標	<p>明るい雰囲気での活動に取り組めるように、みんな協力する。</p> <p>テニスを通じて礼儀を正しくし、お互いの人権を尊重する態度を育てる。</p>	
項目 月	主 な 活 動 の 内 容	指 導 目 標
4	<p>班の編成 部長・班長選び</p> <p>コート名称を学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ作り ・年間目標の決定 ・明るい雰囲気を作る。
5	<p>フォア・バックの素振り</p> <p>練習用サーブの練習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎となるフォームを覚えさせる。 ・ラケットの中心でボールをとらえる。
6	<p>グランド・ストローク（フォア）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったフォームを覚える。 ・ボールのバウンドを知り、一定方向に返球できるようにする。
7	<p>グランド・ストローク（バック）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合ったフォームを覚える。 ・フォアより打点が前方になることを知る。
9	<p>サーブ</p> <p>レシーブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラケットで打つのではなく、腕、肩、腰を利用し、体のバネを使い、全身の力を打点に集中する。 ・サーバーに正対するように構え、タイミングを合わせて打つ。
10	<p>ボレー（フォア）</p> <p>ボレー（バック）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・打つのではなく、押し出すことを理解させる。 ・構えから、フットワーク、スイング、インパクトといった基礎要領を覚える。
11	<p>ロブ</p> <p>スマッシュ（フォア、バック）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・足の構えはどのようにしたらよいか考える。 ・軸足はどのように位置するか覚える。
12	<p>試合</p> <p>競技の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの楽しさを知る。 ・今まで習ったことから、前衛、後衛の役割を考え、試合してみる。
1	<p>試合</p> <p>競技のルール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試合において失点となる事項を理解させる。
2	<p>競技の審判法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試合における審判のしかた、用語を覚える。
3	<p>1年間の反省</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標について ・係の活動について ・その他

卓球(男子)クラブ年間活動計画

指導者 望月秀晃

項目 月	主な活動内容	指導目標
目 標	1. 集団の規律を守り、楽しく活動することを通してよりよい人間関係を育てる。 2. 卓球の基礎的な技術を身につけ余暇の善用に役立てる。 3. ゲームを通して楽しく活動する。	
4	・班編成 ・年間計画の作成 ・用具・器具の準備, 管理の要領	・無理な計画は立てない。 ・仲間意識を持たない。 ・用具・器具を大切にす。
5	・基本動作(素振り, フットワーク) ・基礎練習	・グループ作りをめざす。 ・フォームを作る。
6	・サーブ練習 ・班再編成 ・フォア打ちの練習	・気の合わない人同志でも乱打が続けられるようにする。
7	・サーブ練習 ・フォア打ちの練習 ・1学期の自己・自班の反省	・フォア打ちの上達 ・相手を上手にするための思いやりを養う。
8		
9	・班再編成 ・バック打ちの練習	・新しい気持ちで技術をみがく。 ・バック打ちを身につける。
10	・カットの打ち方	・カット打法を身につける。
11	・スマッシュの打ち方 ・審判の仕方	・スマッシュ打法を身につける。 ・審判の仕方を身につける。
12	・ゲーム ・個人ゲーム ・2学期の反省	・フェアなプレーを身につける。
1	・ゲーム ・ダブルス	・チームワークの大切さをつかむ。 ・ダブルスの意義をつかむ。
2	・ゲーム ・各班リーグ	・ゲームを通して人間関係の深化をはかる。
3	・送別ゲーム(3年生送別のゲームをする) ・総反省(楽しかったこと, 良かったことを中心に反省する)	・総合評価 好ましい仲間づくりができたか。

卓球（女子）クラブ年間活動計画 指導者 鎗野健次郎

目	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・創造的に活動し，集団の一員としての社会的公民的態度を身につけよう。 よりよい人間関係を目指し，集団の向上をはかろう。 	
標	<ul style="list-style-type: none"> 施設用具の整備・管理に気をつけ，健康安全に留意して楽しく活動しよう。 	
項目 月	主な活動の内容	指導目標
4	部会 ・自己紹介 ・班編成 ・用具の準備・管理の要領について ・部員としての心構え	<ul style="list-style-type: none"> クラブの組織づくり
5	<ul style="list-style-type: none"> 年間活動計画の作成 1時間の展開パターンの検討 係，約束ごとの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に活動へ取り組む姿勢を養う。
6	基本動作 ・素振り ・フットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係の向上をはかる。 フォームを固めるようにする。
7	サーブの打ち方とフォア打ち （1学期の反省）	<ul style="list-style-type: none"> よりよい人間関係の育成 フォア打ちの要領をつかむ。
9	班再編成 スマッシュ打ち	<ul style="list-style-type: none"> スマッシュ打法の要領をつかむ。
10	連続打ち	<ul style="list-style-type: none"> 連続打ちの要領をつかむ。
11	ゲーム・審判の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの進め方，審判の仕方を理解する。
12	ゲーム （2学期の反省）	<ul style="list-style-type: none"> よりよい人間関係の育成
1	バック打ち	<ul style="list-style-type: none"> バック打ちの要領をつかむ。
2	ダブルス	<ul style="list-style-type: none"> チームワークの意義を理解する。 ダブルスのやり方を理解する。
3	ゲーム （1年間の総反省）	<ul style="list-style-type: none"> このクラブで1年間活動したことの喜び，意義を認識する。

剣道クラブ年間活動計画

指導者 田中俊治

項目 月	主な活動の内容	指導目標
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動にけじめをつけ楽しい活動にする。 2. 服装用具は必ず持ってくる。持ってきていない時は正座して見学する。 3. 規則を守りまじめに活動する。 4. 礼儀を正しくし相手を尊重する。 5. 活動は協力して行なう。 6. 用具は正しくつけて安全に活動しよう。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ組織づくり (1) 必修クラブについて話し合う (2) 計画表の作成 (3) 素振りと足さばき, 防具の扱い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力しながら楽しく活動する。 ・課外のクラブと必修クラブのちがいを充分理解する。 ・防具の扱い方を正しく行なう。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・基本動作 (1) 素振り練習 (2) 正面打ち (3) 小手打ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本練習を通じ礼儀正しく相手の人格を尊重して活動するようにする。
6	<ul style="list-style-type: none"> (4) 胴打ち (5) 総合練習(小手・面・胴) ・しかげ技 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に活動するためには, 防具や用具を点検するようにする。
7	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小手 - 面 (2) 小手 - 胴 (3) 互格げいこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの班長を中心にして活動することにより班内のチームワークを育てる。 ・基本を守り打っていくようにしよう。
9	<ul style="list-style-type: none"> (4) 試合 (5) かかりげいこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・試合を通じ試合のしかたを理解する。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・試合(リーグ戦) 	<ul style="list-style-type: none"> ・試合のルールを理解する。 ・班内のチームワークの向上をはかる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・応じ技 (1) 払い面 (2) ひき面 (3) ひき胴 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の竹刃を確実に払って打つようにする。 ・相手との間合に注意, 正確に保つ。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・互格げいこ ・試合(リーグ戦) ・2学期の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ・審判のしかたを学習する。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・総合練習 (1) かかりげいこ (2) 互格げいこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の技術的に悪いところをなおし合う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の反省 (1) 試合(技術面の反省) (2) 活動状態の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の総反省を行ない来年度の参考とする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・48年度の計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> (技術面だけにならないよう配慮する。)

ソフトボールクラブ年間活動計画

指導者 井原多澄

- 目 標
- ソフトボールを楽しめるようになる。
 - 集団の中での個人の役割を考え、団体スポーツの意義を見つけよう。

項目 月	主 な 活 動 の 内 容	指 導 目 標
4	組織づくり 班編成 (役員選出)	・ソフトボールクラブの活動内容を知らせる。 ・リーダー中心の自主的な活動であることを理解させる。
5	・ボール投げ ・キャッチボール	・なるべく速くに投げられるようになる。 ・相手の顔もしくは胸の位置にボールを投げる。
6	・ノック ・試合	・ボールをうしろにそらさないようにする。 ・練習の足りないところを見つけ、次時よりの練習に役立てる。
7	・トスバッティング ・一学期の反省	・バットの芯でボールをとらえる。 ・二学期からの活動に役立てる。
9	・二学期の活動計画の確認 ・フリーバッティング	・一学期の反省をもとに楽しく活動できるようにする。 ・構え・スタンスなどを考え、ライナーを打つようにする。
10	・基本練習のまとめ	・それぞれの注意点が守られるようにする。
11	・ルールの学習 ・試合(2チームに分ける。)	・ルールがないとゲームはできないことを知らせる。 ・だれでもが審判ができるようにさせる。 ・チームワークの重要性を考えさせる。
12	・試合 ・二学期の反省	・楽しく試合ができるようにする。 ・ソフトボールの楽しさが理解できたかどうか。
1	・三学期の活動計画の確認 ・試合	・ソフトボールを通して集団の意義、集団の中での個人の役割を考える。
2	・試合 ・一年間の反省	・楽しく活動する工夫をさせる。 ・目標が達成できたかどうか。
3	・基本練習(1・2年)	

体操 クラブ年間活動計画

指導者 土井 慶 嗣

- 目 標
- 体操競技の活動を通して心身の発達をはかり、研究心を持ち、絶えず工夫し創造的な活動を行なう。
 - 協力的なグループ活動を通し、責任感・自主性・向上心等の資質の育成をはかる。

項目 月	主 な 活 動 の 内 容	指 導 目 標
4	組織の確立 活動計画の作成	円滑な活動が行われるためのクラブ員相互の理解を促す。
5	種々の前転・後転の練習	・前転・後転が種々の運動の基礎であり、その重要性を理解し、身につける。 ・秩序ある活動を行なう。
6	倒立の理論を学び練習する。	・倒立の理論を理解し、倒立の色々とその方法・コツを知る。 ・向上心をもって、自主的に活動する。
7	跳び箱運動を通じて、跳躍力をつける。	踏み切りの重要性を理解し、基礎的な跳びこし法を知る。
9	腕立前方転回・後転跳びの練習	・腕立てでの前・後回転の方法を知り、高度な技への足がかりとする。 ・協力して活動する。
10	鉄棒運動を中心として練習する。	鉄棒の握りと運動をやる上での基礎知識を与え、すすんで高度な運動へと取り組む態度を養う。
11	いくつかの運動(技)の創造的連結の練習	各自の個性を大切にしたいいくつかの技のつなぎ方を指導し、各自の創造性の伸展をはかる。
12	身体の柔軟性をはかる運動の練習	体操競技における柔軟性の大切なことを理解させ、その方法をさぐらせる。
1	基礎体力をつくる運動の練習	・基礎体力をつくる運動にはどんなものがあるかを知り、その活用をはかる。 ・責任感の育成をはかる活動とする。
2	団体徒手の練習	・仲間意識・チームワークの育成をはかる。 ・協力して活動する。
3	一年間の反省・評価 三年生との別れ	入部時との技能のちがいを話し合い、お互いの成長を認め合う。 次年度への目安を持たせる。

美術クラブ年間活動計画

指導者 吉川 和治

目	<ul style="list-style-type: none"> ◦協力し合って楽しく活動できるようにしよう。 ◦美術に関する知識や技術を身につけよう。 	
標		
項目 月	主な活動の内容	指導目標
4	班活動	班で自主的に活動内容を決めさせ、主体的な活動ができるようにする。
5	デザイン 線による構成 工 作 紙で船を製作	作品を大切にし、完成させる。 独自の設計による。
6	絵 画 人物をかく 版 画 船を版にする	積極的に絵がかけるようにする。 身近な興味を育てよう。
7	彫 刻 トーテムポール 以下班活動を中心に進めて行くつもりです	完成後校内に設置しよう。 が、一応の活動予定を組んでおきました。
9	運動会のポスター製作	文字、色彩の構成を考えよう。 作品は町内に掲示しよう。
10	紙による造形	平面を立体にすることによって造形の楽しさを学ぼう。
11	年賀状の版画づくり (2色刷り)	実用を目的にして製作する。 新しい年を迎える気持ちを表現しよう。
12	"	"
1	壁かざりの製作 (木のレリーフ)	実際に室内の装飾になるように作る。 彫ることの素朴な美しさを知ろう。
2	楽焼き テラコッタ (つぼ) (置物)	粘土で素焼きをして置物を作ろう。 粘土で造形する楽しさを味わおう。
3	" "	楽焼きの方法を知ろう。

新聞クラブ年間活動計画

指導者 植 勝 博

項目 月	主な活動の内容	指導目標
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 創意工夫してよりよい学校新聞をつくろう。 ○ 新聞に関心を持とう。 ○ まじめに活動しよう。 	
4	オリエンテーション 一学期の目標決定 班づくり	学校新聞のつくり方を説明し、新聞をつくる。 新聞作製の経験から学ぶようにする。
5	学校新聞づくり(ガリバン印刷)	"
6	できた新聞の反省・批評・他校の新聞研究	観点を決めて反省・批評する。新聞のつくり方を しっかり学ぶ。
7	新聞作成(ガリバン印刷) 反省・批評会 一学期の反省	前につくった新聞と比較し、進歩状態をみる。 創意工夫はみられるか。
9	二学期の目標決定 班づくり 壁新聞作製	壁新聞の意義、つくり方について説明し、壁新聞 をつくる。
10	反省・批評会	"
11	一般新聞の研究	一般新聞を読み、現在、新聞がどのような役割を 持ち、どのような状態にあるか考える。
12	二学期の反省	"
1	三学期の目標決定 班づくり 新聞作製(ガリバン印刷)	一・二回目の新聞と比べて、新しく工夫した点に ついて考え、常に創意工夫が必要であることを指 導する。
2	反省・批評会	"
8	一年間の反省	一年の反省、来年への見通しを立てる反省会にす る。

E.S.S (英会話) クラブ年間活動計画 指導者 荒田 亮 達

- 目 標
- ① 中学校の英語学習内容を基本にして、互いに自分の気持や考えを相手に伝えたり、あるいは、それをきいて、意味を理解できるような能力を養う。
 - ② 会話練習を通して、クラブ員相互の人間関係を高めることによって、社会性を身につけさせる。
 - ③ 意図的・計画的な活動を通して、自主性を育て、進んで問題と取り組む能力を養う。

項目 月	主 な 活 動 の 内 容	指 導 目 標
4	E.S.Sについてのオリエンテーション 班編成, 出籍簿の作成 各係の決定, きまりや約束事の決定と確認	必修クラブの意義を理解させる。 英会話習得上の心構えを持たせる。
5	英語による「あいさつの仕方」を練習する。	知人や初対面の人とのあいさつができるようになる。
6	英語による「学校の紹介」	自分の学校について、簡単に説明できるようになる。
7	英語による「家族の紹介」	自分の家族の職業や名前を人に教えられるようになる。
8	夏 休 み	
9	英語による「友人の紹介」	自分の友達を人に紹介できるようになる。
10	英語による「先生の紹介」	自分が教えてもらっている先生を人に紹介できるようになる。
11	英語による「町の紹介」	自分の住んでいる町を人に紹介できるようになる。
12	英語による「趣味や特技の紹介」	自分の趣味や特技を人に教えられるようになる。
1	英語による「正月の説明」	自分の家では、正月をどうすごしたかを、人に説明できるようになる。
2	英語による「気候」についての話し合い	気候について、自分の卒直な感じ方を人に伝えられるようになる。
3	英語による「卒業式と入学式」についての話し合い	卒業式の予定日や、式にのぞんでの感動を人に伝えられるようになる。

書道クラブ年間活動計画

指導者 大 成 治

- 目 標
- 筆で書くことの効果を知り、これを日常生活の上に活用する。
 - 情操を高め、よい生活態度を身につける。
 - 話し合い、協力により楽しく活動できるようにする。

項目 月	主 な 活 動 の 内 容	指 導 目 標
4	班編成 年間活動計画の作成	楽しい雰囲気で見学のもてるクラブづくり。
5	基礎的な毛筆書写 (始筆, 送筆, 終筆)	楷書を書く場合の筆使いを身につける。 (筆順の原則も理解する)
6	楷書練習 筆圧と速度について	楷書の筆使いを身につけ、字形を整えてかく。 班内での研究促進
7	楷書練習 文字の配列と調和について	5, 6月で習得したものを基盤に、創造力を養う。
9	グループの再編成 行書練習(初歩的な筆使い)	行書の特徴を理解。
10	文化祭参加作品の作成	自由な表現力を養う。
11	硬筆(郵便物, 詩などを利用) 配列, 形式を考慮した練習	日常生活に生かしていく態度を養う。
12	書初め, 年賀状の練習 (小筆の練習)	文字の配列・調和に気をつけ、明るい感じを出す。
1	自分の好きな形式, 書体を用い, 作品を 完成させる。	1年間学んだことを生かし, 創意工夫する態度を 養う。
2	同 上	”
3	古典などの鑑賞 1年間の反省	創造意欲への刺激 到達度の確認

家庭科クラブ年間活動計画

指導者 藤田員代

項目 月	主な活動の内容	指導目標
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○技術を身につけ、創造的・実践的な態度で家庭生活に生かしていける。 ○何でも話し合え、楽しいふんいきで活動する。 ○根気よく、最後までやりとげる。 	
4	レース編み(ドイリー) ・コップしき	・細編み・長編み・くさり編み・ひきぬき編みを知る。
5	・テーブルセンター	・実習した編み方を利用して、作品を作る。
6	ししゅう ・テーブルセンター	・フランスししゅうの種類を知る。
7	フランスししゅう) (ドロンワーク)	・縁の始末の仕方を知る。
9	文化祭出品作品の製作	・既習内容を応用して、自由製作をする。
10		
11	調理	・衛生的な実習態度を身につける。
12	パバロア, フルーツポンチ, ホットケーキ, サンドウィッチ 等	・楽しみながら協力して実習できる。
1	毛糸編み	・各種の編み方を実習し、実生活に利用できるものを製作する。
2	・マフラー ・ミトン ・帽子	
3	反省	・1年間の活動をふりかえって反省する。

科学クラブ年間活動計画

指導者 寺田勝彦

目標	科学研究を通して科学のおもしろさを知り、又身のまわりにおこる、様々な解らない不思議だと思われる疑問を部員同志、おたがいに協力し合って解明していく。 その為、話し合いの機会を多くもち、意見交換をしていく。	
項目 月	主な活動の内容	指導目標
4	自己紹介 (科学クラブへ入部希望の動機)	1・2・3年生と日頃つきあっていないので、なごやかな雰囲気の中で、自分の希望が大声で言えるようにする。
5	活動方法・手順についての希望・意見交換 資料収集(今後の活動・研究主題)	生徒達が自分達で考えられる内容のもの、危険性のないものを数多く提示しその中で部員達の趣味に合ったものを選ばす。
6	班員の決定 活動目標・研究主題の決定 班毎の資料収集	科学心を育てる為、趣味の合ったもの同志を班員にして、話し合わせる。
7	班毎による研究主題にそったおおまかな実験観察の作成 研究開始	器具・道具の取り扱いの注意。 本時の実験計画を立案さし、その計画にそって活動さす。 反省の必要性
9	7月の研究した結果をもとに低次な実験観察から高次な内容へと移行	班内での協力が必要であることを理解さす。 又、新しい気づきや考え方が自由に発表できる雰囲気を作る。
10	9月と同じ 研究状態の進み具合 部内で意見交換し軌道修正	
11	10月と同じで研究内容の充実をはかる。	科学研究を行なうには、くだらない、つまらないと思ふ事でも、注意深く取り扱ふ必要があること。
12	冬休みのすどし方についての話し合い。	
1	研究のまとめ・整理の方法を話し合う。 1年間の研究のまとめ・整理	必要な資料と不必要な資料の区別をさす。 資料整理での注意
2	研究発表を行なう。	発表態度の育成
3	反省会をもち来年度の計画について話し合う。	

社会クラブ年間活動計画

指導者 林 義 浩

項目 月	主 な 活 動 の 内 容	指 導 目 標
目 標	1. 地形図を立体化し、総合的に考えようとする態度を養う。 2. 具体的な仕事を通して、完成の喜びと経験を尊重する態度を育てる。	
4	豊浜町の立体地図をつくる。 ($\frac{1}{25000}$)	地形図の読み方・等高線の意味を知る。 生徒相互の情報交換を尊重する態度を指導。
5	豊浜町の立体地図をつくる。 ($\frac{1}{25000}$)	郷土の地形の特徴を全体的につかませる。 今後の立体地図作成の意欲を養う。
6	富士山の立体断面 ($\frac{1}{4}$) をつくる (標高1000m以上) ($\frac{1}{50000}$)	立体断面製作の基礎を学ぶ。 根気よく製作し、製作過程での協力する態度を養う。
7	富士山の立体断面 ($\frac{1}{4}$) をつくる。 ($\frac{1}{50000}$)	立体断面製作の基礎を学ぶ 技術上の意見交換を基に、仕事を完成する過程での協力を学ぶ。
9	富士山の残りの部分をつくる。 ($\frac{1}{50000}$)	地形図の記号を着色し、継続の意欲を育てる。 完成の意欲を養う。
10	富士山の全容を完成させる。 ($\frac{1}{50000}$)	富士山の全容の特徴をつかませる。 生徒相互の作品評価を通して、各自の努力を認める態度を養う。
11	豊島の立体地図を作る。 (内浦地区) ($\frac{1}{3000}$)	郷土の各地区の立体特徴をつかませる。 内浦地区と水資源の関係を理解させる。
12	豊島の立体地図を作る。 (小浦地区) ($\frac{1}{3000}$)	郷土各地区の立体特徴をつかませる。 小浦地区と人口・中心位置の関係を話し合う。
1	豊島の立体地図を作る。 (山崎地区) ($\frac{1}{3000}$)	郷土各地区の立体特徴をつかませる。 分担結果を総合し、完成の喜びと経験を話し合う。
2	記念印をつくる。	1年間共同して活動した、思い出を残す記念印とする。 印鑑についての通説を学ぶ。
3	記念印をつくる。	” ”

音楽クラブ年間活動計画

指導者 大背戸 澄子

- 目標
- 生徒が自主的に曲をえらび、伴奏し、練習して仕上げていく。
 - 教師は生徒の要求によって助言したり指導していく。
 - リーダーの育成と、各々が責任をもった魅力ある活動を考え、集団活動がスムーズに行なえるようにする。

項目 月	主な活動の内容	指導目標
4	・ 日本民謡	・ 1人ずつの声を一応それぞれのパートに分けてパートリーダーを中心に練習し合わせる。
5	合 ・ 一般歌曲	・ 学年を通じて集まった生徒であり、個々の能力差や特性を配慮し、お互いが協力していく体制をつくる。
6	唱	・ すぐ歌えるコーラスで楽しさと安定感を得させ、だんだん1人1人の声を確かめていくようにする。
7		
9		・ 自分達で選曲し、小グループごとに発表し、それをテープにとり話し合わせ、演奏技術を伸ばしていく。
10	器楽（ギター中心）	
11	鑑賞	・ 目的をもってよい音楽をできるだけ多く聞くよう方向づけていく。
12		
1		・ 自ら音楽する心の助長をはかり、生徒が進んで音楽美の理解を得し、意欲をしめすよう指導を進めていく。
2	器楽曲や合唱曲をグループで曲を選曲し仕上げていく。	
3		

読書文芸クラブ年間活動計画

指導者 橋 浜 正 人

目 標	読 書 _____ 書物を読み、理解するとともに自分の 意見・感想を文章に書きあらわす。 文 芸 _____ 感動したことや、自分の気持ちを作文 詩等によって表現する。	〓文集を発行
項目 月	主 な 活 動 の 内 容	指 導 目 標
4 5 6	身近かな事からを題材にして自由に創作 をおこなう。 ① 自己紹介の作文 ② 生活作文 ③ 詩 お互いに批評を行なう。	自由に創作活動を行なわせ他の生徒の 創作と自分の創作とを比較することによ って、物の見方・感じ方・表現方法 の多様性を理解させる。
7	文集を作る(第1集)	各自、作品を選抜し、それを自分たちの 計画で文集に仕上げ、おおまかな文集作 製の仕方を理解させる。
9	読書の方法・作文の書き方・詩の作り方に ついて学習する。	今までの反省にたち作文・詩等の書き方 小説の読み方を理解させる。
10 11 12 1	(読書) (文芸) ・共通の本を読み ① 作者の生涯に ついて ② 作品について ③ 感想文 ①②を調べ、話し 合うことにより、作 品を正確に楽しく読む ・各自本を選択し読む 6月までに行なった 創作活動の反省と9 月の学習をもとに表 現の仕方をくふうし ながら創作を続ける	入部目的が読書と文芸に分かれているが 文芸にとっても読書は必要である。 そこで、この期間は読書に重点をおき指 導にあたる。 ・作者の生涯と作品とがどんな関係 を持っているかを理解させ、作品をよ り正確にとらえ感想文が書けるよう にする。 ・創作面においては、表現の仕方をく ふうしながら創作できるようにする。
2 3	文集を作る(第2集)	第1集の反省にたち、1年間の活動のま とめとして自分たちで文集が作れるよう になる。

昆虫採集クラブ年間活動計画

指導者 望月民雄

目標		
全員が協力して、たくさん昆虫を採集し、標本を作ろう。		
項目 月	主な活動の内容	指導目標
4	クラブについての説明	必修クラブの意義と、昆虫採集クラブについて理解する。
5	ルールの決定とグループ目標を決める。 年間活動計画作り	確実に継続できる計画のたて方を話し合う。
6	標本箱の作成	グループが作業を通して協力できる。
7	昆虫採集	実際に昆虫を採集し興味をつける。
9	標本作り	”
10	昆虫飼育	昆虫の生活を飼育日記を通して知る。
11	”	”
12	飼育日記の整理	”
1	” (ガリ印刷)	”
2	グループの発表	今年度の活動の成果を考える。
3	今年度の反省	反省を通して、来年の目標を考えさせる。

[メモ]

講演

「指導目標としての認知と態度」

名古屋大学教授 塩田芳久先生

瀬戸内海汽船kk (広島—今治, 特急便) 広島宇品棧橋より

(上り)	1 便	2 便	3 便	(下り)	1 便	2 便	3 便
広島発	8.00	12.40	17.10	今治発	8.00	12.30	17.10
呉	8.55	13.35	18.05	大長	9.00	13.25	18.05
豊島	10.25	15.05	19.35	豊島	9.25	13.50	18.30
大長	10.50	15.30	20.00	呉	10.55	15.20	20.00
今治着	12.00	16.40	21.15	広島着	12.05	16.35	21.10

尚 上記より別に, 和加丸, 広島県営棧橋発 14.30 呉 15.20 豊島着 17.10

山陽汽船kk (仁方—竹原フェリー)

(上り)	1	2	3	4	5
仁方発	7.35	8.45	10.30	12.35	17.45
豊島着	8.45	9.55	11.40	13.50	18.55
竹原着		12.20		16.25	

(下り)	1	2	3	4	5	6
竹原発			8.40		12.50	
豊島発	6.10		11.10		15.15	
豊島山崎港	6.15	9.10	↓	12.10	↓	18.05
仁方着	7.20	10.20	12.30	13.20	16.25	19.15

尚 豊島港より, 和加丸, 広島(宇品)行きあり。

豊島発 7.45 → 呉 9.40 → 広島着 10.30

呉線時刻表 (広島—仁方) 仁方駅より

(急)

下	仁方発	7.56	8.59	9.46	10.42	11.58	12.58	14.20	15.14	16.22	16.50	17.16	18.28	19.14	20.11
り	広島着	9.14	9.58	10.56	11.37	12.57	14.02	15.02	16.13	17.25	17.31	18.16	19.27	20.08	21.10

(備考) 仁方棧橋より呉, 広島方面へのバスの便あり。

(急)

(急)

上	仁方発	8.17	9.13	10.41	11.58	12.42	13.57	14.07	14.52	15.49	16.21	16.51	17.17	18.13	19.38
り	三原着	9.36	10.16	11.53	13.05	13.58	14.58	15.26	16.26	17.04	17.24	18.07	18.49	19.31	21.12